

工事番号 000-1

(様式-1)

						課長		係長		検算		担当		
--	--	--	--	--	--	----	--	----	--	----	--	----	--	--

令和7年度 (R6繰越) 林道施設災害復旧事業 林道一の沢線災害復旧工事 実施設計書

安曇野市 穂高牧 金抜き

設 計 大 要	施 工 方 法	請 負
---------	---------	-----

林道復旧工事 垂直擁壁工 L=22.0m	施 工 期 間	日 間
-------------------------	---------	-----

	起工予定年月日	契約の日から
--	---------	--------

	竣工予定年月日	令和 8年 1月 30日
--	---------	--------------

	契約保証方法	金銭的保証
--	--------	-------

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・ この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、% 	
--	--	--

安曇野市土木工事（林道）共通仕様書

- 1 安曇野市の林道工事を施工するにあたって、請負人、現場代理人、主任技術者等は工事に関する以下の図書について熟知し、その記載の規定によるものとする。
 - (1) 長野県林業土木工事共通仕様書（長野県林務部）
 - (2) 長野県林道土木工事施工管理基準（長野県林務部）
 - (3) 長野県土木工事現場必携（長野県）
 - (4) 治山林道必携（日本治山治水協会・日本林道協会）
 - (5) その他長野県林務部が工事を実施するにあたり通知通達した規定等

- 2 設計図書の記載と上記図書の規定が異なる場合は、監督員と協議のこと。

- 3 安曇野市の土木（林道）工事積算は、長野県標準歩掛により積算されているので、施工方法、施工機械等は
その趣旨を理解して施工するものとする。

- 4 図面に記載のない事柄のうち、工事目的物の性能、品質に係るものは監督員と協議のうえ、了解を得て施工
するものとする。

- 5 現場代理人は現場に常駐するとき「現場代理人」の腕章をつけること。

- 6 工事現場周辺に設置すべき現場小屋及び仮設トイレは次による。
 - (1) 現場小屋は500万円以上の工事又は工期3日以上工事
 - (2) 仮設トイレは工期1日以上工事

- 7 個別工種の施工条件については、工事ごとの「施工条件明示事項」による。

- 8 建設業法（昭和24年法律第100号）及び公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律（平成
12年法律第127号）の規定に基づく施工体制台帳の作成・提出等、適正な施工体制の確保を図ること。

施工条件明示事項

工事名： 令和7年度（R6繰越） 林道施設災害復旧事業 林道一の沢線災害復旧工事
箇所名： 安曇野市 穂高牧

工事の実施にあたっては、指定された図書を参考とし、かつ以下の事項について施工条件とする。

1 工事内容

工事概要：金抜き設計書のとおり

2 工期関係

工期は、契約日より **令和8年1月30日** ~~日開~~までとする。

なお、休日等には日曜日・祝日・夏期休暇及び年末年始休暇の他、作業期間内の全土曜日を含んでいる。

3 工程関係

本工事に際し、適切な工程を計画すること。

また、周辺住民、地域関係者に対しては通知・連絡等を必ず実施し周知することとする。

4 用地関係

- (1) 借地等の復旧については、原形復旧を原則とし、所有者、管理者等と立ち会いの上、借地期間内に返還まで完了すること。
- (2) 借地等の復旧箇所については、着手前の状況を写真や測量成果等で記録するとともに、境界杭や構造物の移動については引照点等を設けるなど適切な管理を行い、必要に応じて所有者等の立ち会いを実施し了解を得たうえで着工しなければならない。
- (3) 請負者側で必要な用地の借用、及びこれに伴う諸手続については、請負者側で対応すること。特に「農地の一時転用」については、事前に地方事務所農政課、市農業委員会等と調整をすること。
- (4) 工事に伴い、工事箇所に隣接する土地の境界杭や構造物が支障となる場合は、直ちに監督員と協議し、物件所有者との調整を図ること。

5 周辺環境保全関係

- (1) 建設機械は排出ガス対策型機械使用を原則とする。**別紙-1『排出ガス対策型機械』**のとおり。
- (2) 現場発生残土等各種資材を搬出時には、運搬車両等から土砂を確実に除去してから一般道へ出ること。
なお、一般道が当該工事による原因で破損及び汚れた場合は、請負者の責任において処置すること。（工事着手前に写真撮影しておくこと）
- (3) 特に住宅近接地域での騒音・振動等、水田や畑への排水の流出等の公害防止対策を事前に十分検討するとともに、問題が生じた場合は速やかに対処すること。

6 安全対策関係

- (1) 請負者は労働災害、公衆災害防止に努めなければならない。
- (2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中、月一回（半日）以上実施することとする。なおこの計画を施行計画書に記載するとともに、しゅん工時に開催日、内容、出席者などが確認できる資料と実施状況写真を提出すること。
- (3) 交通安全施設については、下記により実施することを原則とする。
 - ・仮設ヤードまわりは、パネルフェンス等を単管等で固定し、公衆の安全対策を講じること。
 - ・車道部分に接し、車など飛び込みの恐れのある場合はガードレール・視線誘導板、回転燈等を設置する

とともに、特に夜間の安全対策に配慮のこと。

- ~~(4) 工事区間が通学路の場合は、教育委員会、学校と協議の上、通学する児童・生徒の安全対策を十分配慮した施工方法、工程計画、交通管理等を行うこと。~~

7 工事用道路関係

(1) 工事用道路関係

一般道路を使用する場合 公道及び私道を工事用道路として使用する場合は、交通整理、安全管理、日常点検を十分に行い、周辺環境に十分配慮して、事故・環境悪化・苦情がないようにすること。また、道路及び付属施設を破損した場合は、請負者の責任において速やかに原形復旧すること。

(2) 工事に関する看板

本工事にて設置する看板（工事看板、交通規制標示看板、工事予告看板、バリケード等）については以下のとおりとする。

- ①運転者の視界の妨げにならぬよう設置すること。（特に宅地等から出る車両について注意。）
- ②看板の内容が運転者にわかるよう製作、設置すること。
- ③不要になった看板等は速やかに撤去すること。
- ④常に現場の状況と看板の内容が合っていること。
- ⑤請負者の名前が入っているものを使用すること。
- ⑥反射式のものを使用するなど、夜間もその存在がわかるようにすること。
- ⑦国道利第37号・国道国防第205号「道路工事現場における標示施設等の設置基準の一部改正について」平成18年3月31日 道路局 通達 に伴う「新しい工事標示板」を使用すること。

(3) 通行規制

通行規制を行う場合は、その予告を14日前に前項に基づき標示すること。また道路通行制限及び道路使用等通行規制に関する届出は請負者にて行うものとする。

また、迂回路の案内を適切に現地に標示すること。

(4) 過積載防止関係

- ①対策について、施工計画書（施工方法）に具体的に記載すること。
- ②工事現場において過積載車両等が確認された場合、速やかに改善を行うとともに発注者にその内容を報告すること。
- ③工事の施工にあたっては、次の事項を遵守するものとする。
 - 一 積載重量制限を超過して工事用資材を積み込まず、また積み込ませないこと。
 - 二 過積載を行っている資材納入業者から、資材を購入しないこと。
 - 三 資材等の過積載を防止するため、建設発生土の処理及び骨材等の購入にあたっては、下請事業者及び骨材等納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
 - 四 さし柵装着車、物品積載装置の不正改造したダンプカー及び不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。並びに工事現場に出入りすることのないようにすること。
 - 五 過積載車両、さし柵装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける時、過積載を助長することのないようにすること。
 - 六 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、またはさし柵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
 - 七 「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（以下法という）の目的に鑑み、法第12条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。
 - 八 下請契約の相手方または資材納入業者を選定するにあたっては、交通安全に関する配慮に欠ける者または業務に関しダンプトラック等によって悪質かつ重大な事故を発生させたものを排除すること。
 - 九 以上のことにつき、下請契約における受注者を指導すること。

(5) 除雪

~~当工事にて道路通行制限願を提出した場合、その期間及び区間は安曇野市の除雪区間から除外される。その期間及び区間についての除雪は請負者にて行うこととする。除雪詳細は、安曇野市都市建設部建設課より通知される。~~

(6) 沿線の土地利用者への配慮

施行区間、交通規制区間においては、沿線土地の利用について配慮すること。(店舗、住宅、田、畑、事業所等の利用)

8 仮設備等遷啓

(1) 請負者に起因する工期延長等ともなう、仮設材の損料又は賃料期間の設計変更は原則として行わない。

9 残土・廃棄物関係

(1) 本工事の施工において生じる産業廃棄物及び発生土の処分については、下記の処分先を想定して処分費、運搬費を計上している。

なお、請負者の都合による処分先の変更については原則として設計変更しない。

(2) 建設発生土

受入場所・仮置き場所	処分方法	運搬距離	特記事項
安曇野市内	指定処分	10.1 km	

距離指定の場合、残土運搬距離は設計変更の対象とする。

(3) 特定建設資材 (建設リサイクル法)

種 別		処分条件	処分先・運搬距離・数量・金額等			
アスファルト塊		再利用	処理工場名	共和リテック(株)	距離 8.3 km	
			数 量	15 t		
			直接工事費	処分費 12,000 円	運搬費 3,851 円	
コンクリート塊	無筋 Co	再利用	処理工場名	共和リテック(株)	距離 8.3 km	
			数 量	141.0 t		
			直接工事費	処分費 211,500 円	運搬費 1,902 円	
	鉄筋 Co	再利用	処理工場名	共和リテック(株)	距離 8.3 km	
			数 量	6.0 t		
			直接工事費	処分費 10,800 円	運搬費 2,350 円	
二次製品	再利用	処理工場名		距離 km		
		数 量	t ・ m ³			
		直接工事費	処分費 円	運搬費 円		
建設資材木材			処理工場名		距離 km	
			数 量	t ・ m ³		
			直接工事費	処分費 円	運搬費 円	

(4) 産業廃棄物 (建設廃棄物処理指針)

種 別		処分条件	処分先・運搬距離・数量・金額等			
木くず (抜根・伐採材)		再利用	処理工場名		距離 km	
			数 量	t		
			直接工事費	処分費 円	運搬費 円	
汚 泥			処理工場名		距離 km	
			数 量	t ・ m ³		
			直接工事費	処分費 円	運搬費 円	

その他 (廃プラスチック)	処理工場名	株Gフレンドリー	距離	16.5 km
	数 量	34 kg		
	直接工事費	処分費 2,380 円	運搬費	8,382 円

建設工事請負契約書において、処分費・運搬費が上記(3)(4)明示金額より低額の場合は設計変更対象とする。

(5) 建設副産物の運搬・処理について

- ア 建設副産物の運搬を廃棄物処理業者に委託する場合には、必ず書面による委託契約を締結すること。
- イ 運搬及び処分を業とする許可証を確認し、添付すること。
- ウ 下請業者が建設副産物を運搬・処理を行う場合でも、下請契約とは別に委託契約を締結する。
- エ マニフェストにより、適切に運搬・処理されているか確認を行うとともに、マニフェスト(A、B2、D、E表)の(写)及び再資源化施設、最終処分場との関係を示す写真を竣工書類に添付すること。
- オ 請負者が施工計画書に記載若しくは整備すべき事項

・記載事項

※該当するものを選択する

処理方法※	1再資源化 2破砕処理 3焼却処理 4埋立処分場 5その他			
処分先 (業者)	業者名		許可番号	
	住 所			
運 搬 委 託 先 (委託の場合)	業者名		許可番号	
	住 所			
そ の 他	資源化の方法など			

・添付書類

- ア 処理先の許可書の写し及び(収集運搬を委託する場合)収集運搬業者の許可書の写し
- イ 請負者と処理又は運搬業者との契約書の写し
- ウ 処理業者の所在地及び計画運搬ルート

(6) 再生資源利用等計画書、実施書の提出

- ア 施工計画書にあわせて「再生資源利用計画書」及び「再生資源利用促進計画書」を提出する。
- イ しゅん工時に「再生資源利用実施書」及び「再生資源利用促進実施書」を作成し、提出する。
- ウ 作成は、指定されたシステムにより行い、実施書はデータの入力されたFDを添付する。
- エ 対象は量の多少にかかわらず発生する工事の全てとする。ただし、小規模な維持工事を除く
- オ (参考) リサイクル法で定められた一定規模以上の工事

再生資源利用計画書	次のような建設資材を搬入する建設工事 1 土砂 1,000m3 以上 2 砕石 500t 以上 3 加熱アスファルト混合物 200t 以上
再生資源利用促進計画書	次のような指定副産物を搬出する建設工事 1 土砂 1,000m3 以上 2 コンクリート塊、アスファルト塊及び建設発生木材 合計 200t 以上

一定規模：特定建設資材を用いた建築物等の解体工事、特定建設資材を使用する工事で、請負代金額が500万円以上のもの

特定建設資材：①コンクリート②コンクリート及び鉄から成る建設資材
③木材④アスファルト・コンクリート

- (7) 残土処理については、作業状況の写真に加え、処分量がわかる資料(1箇所であれば、幅・長の分かる写真、数カ所であれば、一覧表を作り運搬業者からの伝票)を添付する

10 工事支障物関係

- ~~(1) 既設公共下水道のマンホール高調整については、監督員および安曇野市上下水道部下水道課下水道整備担当と協議すること。~~
- ~~(2) 公共基準点が支障となる場合は監督員と協議すること。また、請負者の負担により測量士の資格を有する者が復元するよう手配すること。(基準点紙は市支給)~~
- (3) 上記のほか着手前に調査し、工事にて支障となる物件がある場合は事前に監督員と協議すること。
- (4) 工事にて支障を与える可能性があるものについては、その権利者にその旨を申し出ること。

11 品質及び技術管理関係

- (1) 建設資材の品質記録保存
土木構造物について建設資材の品質記録を作成し、工事完了時に提出する。
- (2) 工事カルテ作成、登録について
請負者は、工事請負代金額500万円以上の工事について、工事实績情報サービス(CORINS)入力システム(財)日本建設情報総合センター)に基づき、受注・変更・完成・訂正時に工事实績情報として、着手届提出時に「工事カルテ」を作成し監督員の確認を受けた上、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、完成時は工事完成後10日以内に、訂正時は適宜登録期間に登録申請しなければならない。また、登録を行い発行された「工事カルテ受領書」の写しを監督員に提出する。提出期限は、以下のとおりとする。
 - ・受注時登録の提出期限は、契約締結後10日以内とする。
 - ・完了時登録の提出期限は、しゅん工検査日までとする。
 - ・施工中に、受注時登録データの内容に変更があった場合は、変更があった日から10日以内とする。なお、竣工(完了)時登録済データに対して、訂正(削除)をする場合は、発注者の確認印を押印した発注機関確認書が必要になります。
- (3) 建設資材のうち、コンクリート圧縮強度試験及び鉄筋試験等については、原則として、建設技術センター試験所にて行うこと。また、圧縮試験供試体には、請負者の主任技術者又はコンクリート担当技術者がサインしたQC版を入れる。
- (4) コンクリート品質管理の取扱いについて
 - ア コンクリート担当技術者の配置
 - ・請負者は、50m³以上のコンクリート工事においては、コンクリート担当技術者を配置し、施工計画書に明示する。
 - ・同技術者は、現場代理人との兼務は不可である。また、現場代理人が主任技術者の資格を有する場合は、兼務が可能である。
 - イ 責任分界点からの請負者が行う品質管理
請負者は「責任分界点」から先の全ての品質管理に責任を負うものであり、品質管理のための試験等を生コン会社に委託した場合には、その全てに立ち合うとともに、その記録及び写真を竣工成果品として提出するものとする。なお、上記において立会の証としてコンクリート担当技術者が必ず写真に写っているものとする。
 - ウ 生コン納品書(伝票)の扱い
 - ・生コン納品書は竣工成果品として提出するものとする。
 - ・納品書には、工場発時間、現場着時間及び打設完了時間を記入するものとする。
- (5) 技術管理費には、トンネル・橋梁・砂防・その他指定した構造物に関して、マイクロフィルム製作費(2本)、縮刷製本費(3部)が含まれているのでこれらを実施すること。
- (6) 工事に使用する材料の承認
工事で、使用する材料は「材料承認願い」を提出して承認を得ること。

1.2 各種調査・試験に対する協力

(1) 「土木工事共通仕様書」1-1-17にもとづき、発注者が自ら又は、発注者が指定する第3者が行う下記調査等及び試験に対して、協力しなければならない。

ア 公共事業労務費調査

・ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法に従い就業規則を作成するとともに賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。また、工事の一部について下請契約を締結する場合には、当該下請工事の受注者も同様の義務を負う旨を定めなければならない。

イ 諸経費動向調査

ウ 施工合理化調査（歩掛実態調査）

・ 施工合理化調査に該当となった工種については、発注者から指示があるとともに、技術管理費に当該調査に関わる調査費用を計上する。

1.3 その他

(1) 建設産業における生産システムの合理化指針の遵守等について

工事の適正かつ円滑な施工を確保するため、「建設産業における生産システムの合理化指針」において明確にされている総合・専門工事業者の役割に応じた責任を的確に果たすとともに、適正な契約の締結、適正な施工体制の確立、建設労働者の雇用条件等の改善等に努めること。

(2) 建設工事の適正な施工の確保について

一 建設業法（昭和24年 法律第100号）及び公共工事の入札契約の促進に関する法律（平成12年 法律第127号）に違反する一括下請その他不適切な形態の下請契約を締結しないこと。

二 建設業法第26条の規定により、請負者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の主任技術者または専任の監理技術者については、適切な資格、技術力等を有する者（工事現場に常駐して、専らその職務に従事する者で、請負者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあるものに限る）を配置すること。

三 請負者が工事現場ごとに設置しなければならない専任の監理技術者のうち、当該建設工事に係る建設業が指定建設業である場合の監理技術者は、建設業法第15条第2号イに該当する者または同号ハの規定により建設大臣が同号イに掲げる者と同等以上の能力を有するものと認定した者で、監理技術者証の交付を受けている者を配置すること。この場合において、監理技術者の写しを契約時に提出する。また発注者から請求があったときは、資格者証を提示すること。

四 一、二、及び三のほか、建設業法等に抵触する行為は行わないこと。

(3) 労働福祉の改善等について

建設労働者の確保を図ること並びに労働災害の防止、適正な賃金の確保、退職金制度及び各種保険制度への加入等労働福祉の改善に努めること。

(4) 建設業退職金制度について

一 建設業者は、自ら雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙を購入し、当該労働者の共済手帳に共済証紙を貼付すること。

二 建設業者が下請契約を締結する際は、下請業者に対して、建退共制度の趣旨を説明し下請業者が雇用する建退共制度の対象労働者に係る共済証紙をあわせて購入し現物により交付すること、または建退共制度の掛金相当額を下請代金中に算入することにより、下請業者の建退共制度への加入並びに共済証紙の購入及び貼付を促進すべきこと。

三 請負代金の額が800万円以上の建設工事の請負契約を締結した時は、建設業者は建退共制度の発注者用掛金収納書（以下「収納書」という）を工事締結後1ヶ月以内に発注者に提出すること。なお、工事契約締結当初は工場製作の段階であるため建退共制度の対象労働者を雇用しないこと等の理由により、期限内に当該工事に係る収納書を提出できない事情がある場合においては、あらかじめその理由および共済証紙の購入予定時期を書面により申し出ること。

四 建設業者は三の申し出を行った場合、請負代金額の増額変更があった場合等において、共済証紙を追

加購入したときは、当該共済証紙に係る収納書を工事完成時まで提出すること。なお、三の申し出を行った場合または請負代金額の増額変更があった場合において、共済証紙を追加購入しなかったときは、その理由を書面により申し出ること。

- 五 共済証紙の購入状況を把握するため必要があると認めるときは、共済証紙の受払簿その他関係資料の提出を求めることがある。
- 六 建退共制度に加入せず、または共済証紙の購入若しくは貼付が不十分な建設業者については、入札等において考慮することがある。
- 七 下請業者の規模が小さく、建退共制度に関する事務処理能力が十分でない場合には、元請業者に建退共制度への加入手続き、共済証紙の共済手帳への貼付等の事務の処理を委託する方法もあるので、元請業者においてできる限り下請業者の事務の受託に努めること。
- (5) 建設現場における福祉改善や労働時間の改善、または地域住民に対する工事現場の開放やPRなど、建設産業に対する理解の増進に資する事業の実施等の構造改善対策にも配慮する
- (6) 高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況については、別紙-2『高度技術等』により提出できる。
- (7) 暴力団関係者等から工事妨害などの被害を受けた場合は、速やかに被害届を警察に提出する。
- (8) 関係機関・自治体等との近接協議

関係機関等	事項	制約内容	時期
安曇野市 教育委員会	小中学校の通学路 確認	関係機関指導のもと	契約後即対応のこと。 また、工期内とする
保育園	保育園バスの確認	上記と同様	上記と同様
下水道課 維持管理担当	下水道MH高さ調整 をする場合	上記と同様	上記と同様
下水道課 維持係	掘削深さ 本管H=120cm以上 取出管H=60cm以上 の場合	上記と同様	上記と同様
地域支援課 生活環境係 収集運搬業者	ごみ収集運行確認 集積所の確認	上記と同様	上記と同様
地元区長 地元市議会議員	工事内容、工事期間、迂回路などの説明	上記と同様	契約後即対応のこと
工事区間内住民	上記と同様	関係機関指導のもと(ただし、無理難題が出される場合には、丁寧に断ることも必要であり、監督員との協議をすること。特に工事金額に関わりそうなことは忘れずに協議すること)	契約後即対応のこと。 また、工期内とする
工事区間内農地所有者又は管理者及び工事区間への様々なものの搬出、搬入など	稲刈り時期、その他収穫時期、工事の進捗及び耕作上支障となることの協議	上記と同様	上記と同様
周辺店舗、事業所など	駐車場、案内看板などの協議	関係機関指導のもと(ただし、無理難題が出される場合には、丁寧に断ることも必要であり、監督員との協議をすること。特に工事金額に関わりそうなことは忘れずに協議すること)	上記と同様

その他	必要に応じて対応すること	上記と同様	苦情、要望など後即対応すること。また、工期内とする
-----	--------------	-------	---------------------------

- (10) 生コンクリートをはじめとして、主要な材料は管内工場の価格により積算しているため、これらを管外から搬入する場合は、協議すること。
- (11) 不正改造ダンプトラックの排除について（別添資料1）

1.4 個別事項

- (1) 諸経費については、補助対象分設計書と市単独分設計書で合併積算している。
- (2) 床掘のモルタル吹付の厚みについては3cmで設計しているが、床掘の状況により危険が生じる場合は協議すること。
- (3) 施工箇所上部からの落石がある場合、安全措置について協議すること。

1.5 参考資料

- 別紙ー3 『土木工事における提出書類一覧表 及び チェックリスト』
- 別紙ー4 『土木工事写真撮影（例）一覧表』
- 別紙ー5 『施工計画書チェックリスト』

排出ガス対策型建設機械の原則使用について

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3年10月8日付 建設省経機発第249号）に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、またはこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで、排出ガス対策型建設機械と同等とみなす。ただし、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。

排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において、使用する建設機械の写真撮影を行ない、監督員に提出するものとする。

排出ガス対策型建設機械を原則使用する機種

機 種	備 考
一般工事用建設機械 <ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ ・トラクタシャベル（車輪式） ・ブルドーザ ・発動発電機（可搬式） ・空気圧縮機（可搬式） ・油圧ユニット （以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシーンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、パイプロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーサーキュレーションドリル、アースドリル、地下連続壁施工機、前回転型オールケーシング掘削機） <ul style="list-style-type: none"> ・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ ・ホイールクレーン 	ディーゼルエンジン （エンジン出力7.5kw以上260kw以下） を搭載した建設機械に限る。

別添様式

高度技術・創意工夫・社会性等に関する実施状況

工 事 名		請負者名	
項 目	評価内容	備 考	
<input type="checkbox"/> 高度技術 工事全体を通して他の類似工事に比べて、特異な技術力	<input type="checkbox"/> 施工規模		
	<input type="checkbox"/> 構造物固有	複雑な形状の構造物 既設構造物の補強、特殊な撤去工事	
	<input type="checkbox"/> 技術固有	特殊な工種及び工法 新工法（機器類を含む）及び新材料の適用	
	<input type="checkbox"/> 自然・地盤条件	湧水、地下水の影響 軟弱地盤、支持地盤の状況 制約の厳しい工事用道路・作業スペース等 気象条件の影響 地すべり、急流河川、潮流等、動植物等	
	<input type="checkbox"/> 周辺環境等、 社会条件	埋設物等の地中内の作業障害物 鉄道・供用中の道路・建築物等の近接施工 騒音・振動・水質汚染等環境対策 作業スペース制約・現道上の交通規制 廃棄物処理	
<input type="checkbox"/> 現場での対応	災害等での臨機の処置 施工状況（条件）の変化への対応		
<input type="checkbox"/> 創意工夫	<input type="checkbox"/> 準備・後片付け		
	<input type="checkbox"/> 施工関係	施工に伴う機械、器具、工具、装置類 二次製品、代替製品の利用 施工方法の工夫 施工環境の改善 仮設計画の工夫 施工管理、品質管理の工夫	
	<input type="checkbox"/> 品質関係		
	<input type="checkbox"/> 安全衛生関係	安全施設・仮設備の配慮 安全教育・講習会・パトロールの工夫 作業環境の改善 交通事故防止の工夫	
	<input type="checkbox"/> 施工管理関係		
<input type="checkbox"/> その他			
<input type="checkbox"/> 社会性等 地域社会や住民に対する貢献	<input type="checkbox"/> 地域への貢献等	地域の自然環境保全、動植物の保護 現場環境の地域への調和 地域住民とのコミュニケーション ボランティアの実施	

1. 該当する項目に□に レ点マーク記入

土木工事における提出書類一覧表 及び チェックリスト

■契約後提出書類

種	類	内 容		頻 度	確 認
1	着手届			契約毎	
2	工程表			契約毎	
3	現場代理人、主任（監理） 技術者の通知	技術者経歴書の添付 資格証の写し添付		契約毎	
4	技術者報告書	2,500万円以上の工事		契約毎	
5	監理技術者の資格証の写し	下請金額3,000万円以上になる場合		契約毎	
6	社会保険証の写し	現場代理人、主任技術者及び 監理技術者のもの		契約毎	
7	建退協掛金収納書の提出	800万円以上の工事では契約後 1ヶ月以内に提出する。		契約毎	
8	工事カケの提出	工事金額が500万円以上の場合、着手届提出時に登録前の工事カケを監督員が確認し、契約後10日以内にJACIC（（財）日本建設情報総合センター）のコンズシステムへ登録。その「工事カケ受領書」の写しを提出する。		1回	
9	下請負人通知書	下請契約がある場合は、その金額にかかわらず報告すること。（下請の理由を明確に記入）	各写しを協議書に添付すること。（契約書・請書等、下請業者の資格証、下請現場責任者の資格証等）	必要回数	
10	施工体制台帳 及び施工体系図	下請契約がある場合には、全ての工事において作成し提出する。		契約毎	
11	前金払請求書	請負業者において前払い金が必要な場合		1回	
12	その他	発注者及び請負業者で必要なもの		必要回数	

■工事着手前提出書類

種	類	内 容		頻 度	確 認
1	工事施工計画書	詳細は別紙		契約毎	
2	工事施工協議書	起工測量結果表等	工事着手後直ちに工事測量を行い、結果を監督員に提出する。	契約毎	
		予想出来型展開図	設計図書を基に起工測量結果を考慮して予想出来形展開図を作成する。（発注図面の利用及び舗装面積展開図）	契約毎	
		材料承認願	コンクリート二次製品、生コンクリート、アスファルト合材、骨材、その他工事に使用する全ての材料（必要な試験結果は契約日前6ヶ月以内であること）	契約毎	
		図面との不一致協議		必要回数	

		周辺調査・地下埋設物調査・その他各種事前調査資料など		契約毎	
3	その他	監督員の指示するもの。		必要回数	

■工事中提出書類

種	類	内 容		頻 度	確 認
1	工事施工協議書	協議事項		必要回数	
		材料承認願い	変更に伴う材料 (例)使用合材及び使用骨材等の変更など。	必要回数	
		予想出来型展開図	構造物の変更または舗装面積の増など。	必要回数	
2	技術者等変更通知書	現場代理人、主任技術者等の変更	技術者経歴書、資格証、社会保険証の写し添付。	必要回数	
3	工期延長申請書	請負者の責により工期延長する場合	変更工程表の添付(赤黒対象)	必要回数	
4	監督員指示書	監督員の指定するもの		必要回数	
5	工事変更施工計画書	施工延長の変更、技術者等の変更、工期変更及び下請に変更があった場合		変更毎に	
6	施工体制台帳及び施工体系図	下請契約に変更が生じた場合及び追加が生じた場合は提出する。	各写しを協議書に添付すること。	契約毎	
7	事故報告書	事故があった場合		必要回数	
8	完成時点予想出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図・雑工関係		80%出来形時	
9	工事カケの提出(変更時)	請負代金500万円以上。なお、登録期限は変更契約時から10日以内とする。ただし、しゅん工時登録と変更時登録の間が10日以内であれば、変更時登録を省略し、しゅん工時に登録することが出来る。	写しを協議書に添付すること	変更契約毎	
10	検査記録票 (段階確認用)	監督員が指定した場合には提出すること。		必要回数	
11	出来形確認申請書	請負業者において部分払いが必要な場合	業者→発注者	部分払を請求する回数は、安曇野市財務規則第137条による。	
12	出来形検査結果通知書	請負業者において部分払いが必要な場合	発注者→業者		
13	部分払請求書	請負業者において部分払いが必要な場合	業者→発注者		
14	現場休業届	工期の間5日以上休む場合		必要回数	
15	その他	監督員の指示するもの。		必要回数	

■工事完成時提出書類

種	類	内 容	頻 度	確 認
---	---	-----	-----	-----

1	工事カルテの登録 (しゅん工時)	請負代金 500 万円以上。登録期限はしゅん工日から 10 日以内とする。	写しを添付すること。竣工検査までに必ず提出する。技術データ登録内容の写し添付。	しゅん工時
2	しゅん工届			しゅん工時
3	請求書			しゅん工時

■しゅん工書類

種	類	内	容	確認
1	目次	書類整理順に目次を作成する。		
2	経緯表	施工協議書の受け渡し内容、指示書などを日付順にまとめる。		
3	施工協議書	発注者側からの協議書(指示書)、受注者側からの協議書を日付順にまとめる。		
4	実施工程表	計画を黒線、実施を赤線で表記する。		
5	工事記録簿(工事日誌)	工期中は空白を作らず、計画・準備・書類整備等も記入。		
6	監督日誌	日付順にまとめ、日誌にも記録する。		
7	検査記録表	工事写真と照合出来ること。		
8	使用材料集計表・対比表	設計数量と使用数量を記入し対比する。		
9	各種材料受払簿	品目毎に一欄とし、着手からしゅん工まで通しとする。 集計欄は月毎に小計、2ヵ月より累計、しゅん工月には合計を記入。		
10	使用材料伝票類	生コン伝票以外(11-(4)参照)の使用材料全て(しゅん工書類とは別冊で提出、検査終了年度から5年間会社保管)		
11	交通整理員集計表	伝票を集計したものを添付する。(使用材料伝票類と一緒に綴り検査終了年度から5年間会社保管)		
12	100%出来形展開図	平面図・縦断図・舗装展開図等(工事完成時の設計寸法を()の中に記入し、実測寸法を()の外に記入する。)		
13	材料試験結果	埋戻材(発生土・砕石)密度・アスファルト(厚さ・密度・平坦性)・コンクリート等		
14	再生資源利用実施書 再生資源利用促進実施書	計画書は当初施工計画書に写しを添付し、実施書は媒体(FD)を添えて写しを提出する。		
15	産業廃棄物処理表	A、B2、D、E表の写しを最初、中間、最終を提出すること(原本は検査終了年度から5年間会社保管)		
16	社内検査資料	書類・現場検査時の写真及び検査記録表等添付。		
17	安全教育資料	実施状況写真や安全教育資料を提出。		
18	過積載防止対策	施工計画に基づいた実施状況写真を提出。		
19	残土処理	土捨場の状況写真、土量計算書を提出。		
20	創意工夫	実施状況写真・資料を提出。		
21	工事写真	着工前、竣工、品質管理、工種別状況、その他の順番で綴る。		

22	舗装コア	検査時に持参。(検査終了年度から5年間会社保管)	
23	その他	監督員が指示するもの。	

※補助事業については、10年間会社保管とする。

土木工事写真撮影（例）一覧表

デジタルカメラ使用可、プリントについては写真専用紙又は光沢紙を使用すること。（普通紙は不可）

区分	工種	写真管理項目			備考
		撮影項目	撮影時期	提出頻度	
着工前・完成	着工前	全景(始点から終点に向かって及び終点から始点に向けて撮影) 施工延長に応じた必要なポイント	着工前	着工前各1回	
	完成	着工前と同じ	完成後	完成後各1回	
土工 ※状況写真は、位置がわかるように背景を入れて撮影する。	掘削	掘削状況	施工中	処分地及び仮置場が異なる毎に1回の撮影とし、着工前各1回、完成後各1回	
		掘削深さ	床掘完了後		
		掘削幅			
	床均し	床均し状況	施工中		
	発生土処分	積込み状況 過積載の確認	積込み中		
			積卸し 整地中 着工前 整地中 整地後		
		処分状況 (仮置場含む) 処分場全景 (仮置場含む)			
	基礎工	施工状況	施工中		
		転圧状況	基礎工完了後		
厚さ・幅					
埋戻し	埋戻し及び投入状況	施工中			
	締固め状況	1層毎の発生土埋戻し完了後			
	1層毎の厚さ・幅				
コンクリート工	型枠	施工状況	施工中		
	打ち込み	型枠寸法	設置完了後		
		打設状況	施工中		
出来型	構造物寸法	完了後			
鉄筋工	鉄筋工	施工状況	施工中		
		鉄筋配置寸法	完了後		
二次製品 布設	基礎工	施工状況	施工中		
		転圧状況	基礎工完了後		
		厚さ・幅			
	捨コン基礎	型枠施工状況	施工中		
		型枠寸法	設置完了後		
		打設状況	施工中		
		厚さ・幅	捨コン完了後		
	敷モルタル	施工状況	施工中		
		厚さ・幅	敷モルタル完了後		
	布設工	布設状況	施工中		
		施工後			
その他の 構造物	全ての工種	施工状況	施工中	特に埋設されるものは必要以上に写真を残すこと	
		完成状況	施工後		

舗装工	舗装切断	切断状況	施工中			
	舗装取壊し	取壊し状況	施工中			
		積込状況				
		現況舗装厚の検測				
	路盤工	施工状況	施工中			
		転圧状況				
		整正状況				
		厚さ				
	表層工	幅	整正後			
		施工状況				
		転圧状況				
		整正状況				
表層工	厚さ	整正後				
	幅					
	施工状況					
	整正状況					
共通仮設	仮設工	現場事務所等の設置状況	設置後	種類毎に1回		
		仮設トイレの設置状況				
	水替工	ポンプ設置状況	施工中	1 施工箇所	に1回	
		排水状況（吐出先の状況）				
		形状寸法				
	安全施設	各種標識類の設置	設置後	種類毎に1回		
		各種保安施設の設置				
		監視員・交通整理状況				
		夜間の安全施設の状況				
	安全施設	安全訓練の実施状況	作業中	配置箇所毎に1回		
			施工中			
			実施中			
使用材料	使用材料	形状寸法	使用前	使用品目及び使用部材毎に1回		
		検査実施状況	検査時	検査毎に1回		
使用機械	使用機械		使用前	機械毎に1回		
品質管理	路床・路体	現場密度の測定	試験実施中			
	路盤工	締固め密度測定	試験実施中			
		プルフローリング測定	試験実施中			
	アスファルト舗装（舗設現場）	温度測定	試験実施中		合材の種別毎に1回	
		密度試験				
		採取コア As 量抽出				
		粒度分析試験				
	コンクリート	オベリ抵抗試験	試験実施中		試験毎に1回	
スラブ試験						
圧縮強度試験						
塩化物含有量試験						
その他	補償関係	被害又は損害状況等	発生時 対応状況後	その都度		
	環境対策	各施設設置状況	設置後	種別毎に1回		
	事前調査	樹木、ブロック塀、家屋のクラックなど	着工前	実施箇所毎に1回		
		地下埋設物調査	調査後	実施箇所毎に1回		
	建退協	建退協への加盟写真	実施中	1回		
	施工体制	施工体制図を掲げた写真	実施中	1回		
	安全教育	実施状況	実施中	実施毎に1回		
	KY 活動	実施状況	実施中	適宜		

- ※1 これはひとつの写真撮影例であり、工事現場ごと当該監督員と協議して決定すること。その際は、協議書を添えて協議すること。
- ※2 現場における黒板及びホワイトボードへ設計値及び実測値を記入すること。また、書類整備においても写真の横にある余白へ設計値及び実測値を記入すること。
- ※3 しゅん工書類には、区分毎及び測点毎にインデックスをつけること

施工計画書のチェックリスト 1 工事名：令和7年度（R6繰越） 林道施設災害復旧事業 林道一の沢
線災害復旧工事

施工業者：

箇所名：安曇野市 穂高牧

項目	内容	指示事項	確認
◎施工計画書の内容（1～15）	起工測量後速やかに提出されているか。（協議書添付）		
1 工事概要（1）工事概要	工事名、工事箇所、工期、設計大要、主たる構造物の概要を記入。		
（2）工事内容	工種、種別、数量を記入。		
（3）予想出来型展開図	工事の内容を全項目と数量計算を記入。後日80%、100%の展開図として使用する。		
2 計画工程表（1）実施工程表	経済的な工程計画立案の趣旨に沿って計画し、しゅん工時には、実績工程表を赤黒対象で提出する。複数の工種ではネットワーク等の工程表も考慮する。		
3 現場組織（1）現場組織表	・工種毎の作業主任者を決め記入。（資格証明書のNO及び写の添付） ・下請業者も含む組織の明示。		
（2）コンクリート担当技術者	打設量が50m ³ 以上の場合、設ける。		
4 安全管理（1）安全管理組織表	会社内のそれぞれの安全管理者の分担を記入。		
（2）作業前のミーティング	毎朝どのようなミーティングをするか記入。実施中の写真数枚撮っておくこと。		
（3）安全協議会の設置	協議会規約を添付。開催内容記入。		
（4）安全教育の実施	月1回の教育内容記入。新任者教育内容記入。写真整備。		
（5）公衆災害防止	現場近くの住民等を災害から守る施設を記入。		
（6）労働災害防止	作業員を災害から守るため落石、崩壊、転落防止のための施設計画を記入。		
（7）土石流に対する措置	土石流による労働災害防止のためのガイドラインにより記入。		
5 施工機械（1）機械使用計画	工事に使用する主要な機械名、規格、使用台数、作業期間等を実施工程表と対照し記入。機械名は、工種毎に記入し備考には主な作業内容を記入する。		
6 主要材料（1）材料搬入使用計画	あらかじめ工事材料の使用承認願いを提出し、承認を得た資材について使用計画を記入。工種別に材料、規格、数量、日程、購入先を記入する。		
7 施工方法（1）施工方法	平面図、展開図、標準断面図や簡略図により、工事の施工方法を具体的に記入。		
（2）施工順序と施工量	構造図の縮小版等を利用し、各工種毎の構造物の施工順序を具体的に記入。施工順序により施工量（日数）を計算して記入。		
（3）コンクリート打設計画	各構造物の打設計画を記入。コンクリートの養生方法についても具体的に記入。打継目処理計画、鉄筋の保管方法等。		

項 目	内 容	指 示 事 項	確 認
7-2 仮設計画 (1) 瀬追工及び排水工	現場に適合した計画を記入。(任意協議)		
(2) 仮設道路迂回路	最も合理的な計画で作成。(任意協議)		
(3) 仮設トイレ ・現場事務所配置	仮設トイレ・現場事務所の配置図作成。		
(4) その他	仮橋及び支保工等の強度計算書の添付。		
8 施工管理 (1) 出来型管理	工種、出来型管理項目、対象数量、測定頻度、測定数、管理測点を記入。		
(2) 品質管理	種別、品質管理試験名、対象数量、測定頻度、測定数、試験場所を記入。		
(3) 写真管理	工種、撮影項目、対象数量、撮影頻度、撮影数、撮影測点を記入。		
(4) その他	その他特殊構造物における出来高管理、品質管理、写真管理等は協議して記入。		
9 緊急連絡系統図	関係機関の連絡先を記入。(携帯電話等も記入)		
10 交通管理対策	現場内及び現場外の標識設置計画を平面図の縮小版又は略図に記入。「土木工事現場必携」参照。交通整理員の写真等。		
11 環境対策	工事現場の仮設物等について周辺環境との整合及び騒音、振動、汚濁、水質、水枯れ等を関係法令、条例の遵守について記載する。		
12 建設副産物	再生資源利用(計画・実施)書又は再生資源利用促進(計画・実施)書の提出。搬出先までのルート図添付(距離記入)		
13 過積載防止対策	対象を明示し、対策を具体的に記入。		
14 関係機関との協議	工事着手前に各関係機関と協議する事項又は処理方針、回答を記入。(電気、電話、上下水道、ガス、用水路、家庭配水管等) 写し添付。		
15 残土処理計画	位置図、平面図、縦横断面図を作成して残土可能量を算出し提出のこと。搬出先までのルート図添付。(距離記入)		

令和7年度(R6繰越) 林道施設災害復旧事業
林道一の沢線災害復旧工事 位置図



総括情報表

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	01 0 1 実施単価 50 1 1 中信(2) 07.05.01	
前払率 消費税率(%) 工種 豪雪地域補正 週休2日補正 契約保証方法 設計書区分	当 世 代 40 35%を超える又は前払対象外 10 % 03 道路工事 01 補正有り 07 月単位 01 金銭的保証 00 実施設計	前 世 代
	これらの諸経費等の条件については、原則変更協議の対象とはなりませんのでご理解願います。	

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
本工事費					
林道施設災害復旧					
土工					
残土処理工					
運搬 ダンプトラック 搬路状況良好 10t車 粘性土・砂・砂質土・礫質土 運搬距離10.1km	108	m ³			単価 第0-0001号表
擁壁工					
作業土工					
作業土工(床掘工)	587	m ³			単価 第0-0004号表
運搬 ダンプトラック 搬路状況良好 10t車 粘性土・砂・砂質土・礫質土 運搬距離0.5km 現場 仮置場	352	m ³			単価 第0-0006号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m3 [超小旋回型] ル - ズな状態の土砂積込 仮置土積込	352		m	3					単価	第0 -0007号表
運搬 ダンプトラック 搬路状況良好 10t車 粘性土・砂・砂質土・礫質土 運搬距離 0.5km 仮置場 現場	352		m	3					単価	第0 -0006号表
埋戻し 最大埋戻幅1m以上4m未満	317		m	3					単価	第0 -0009号表
基面整正	40		m	2					単価	第0 -0010号表
プラスチック擁壁工										
標準ブロック H500×B370×L1000	237			個						
L型金網 100型 H500×B650×L1000(0.5m2/個)	19			個						
L型金網 150型 H500×B1150×L1000(0.5m2/個)	48			個						
L型金網 200型 H500×B1650×L1000(0.5m2/個)	81			個						

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
L型金網 250型 H500 × B2150 × L1000(0.5m2/個)	71			個						
L型金網 300型 H500 × B2650 × L1000(0.5m2/個)	18			個						
根石ブロック 110型 H500 × B1100 × L1000	3			個						
根石ブロック 130型 H500 × B1300 × L1000	4			個						
根石ブロック 180型 H500 × B1800 × L1000	15			個						
端部金網 50型 H500 × B500(0.25m2/枚)	35			枚						
端部金網 100型 H500 × B900(0.45m2/枚)	9			枚						
端部金網 150型 H500 × B1400(0.70m2/枚)	15			枚						
端部金網 200型 H500 × B1900(0.95m2/枚)	3			枚						

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
端部金網 300型 H500 × B2900(1.45m ² /枚)	4	枚			
中詰材保持シート W600 × t0.5mm	361	m			
吸出防止材 合繊不織布、厚10mm	55	m ²			
垂直擁壁組立・設置工 標準ブロック・L型金網	118.5	m ²			単価 第0 -0011号表
垂直擁壁組立・設置工 根石ブロック	11.0	m ²			単価 第0 -0012号表
垂直擁壁組立・設置工 端部網	32.0	m ²			単価 第0 -0013号表
胴込・裏込材(砕石) 大型ブロック 再生クラッシュラン RC - 40	250.3	m ³			単価 第0 -0014号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 一般養生 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホウ(クレーン機能付)打設	4.0	m ³			単価 第0 -0015号表
型枠 一般型枠 均しコンクリート	4.4	m ²			単価 第0 -0016号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
基礎碎石 7.5cmを超え12.5cm以下 再生クラッシャーラン RC - 40	39.9	m ²			単価 第0 -0017号表
コンクリート 小型構造物 一般養生 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホ(クレーン機能付)打設	5.9	m ³			単価 第0 -0018号表
型枠 一般型枠 小型構造物	17.9	m ²			単価 第0 -0019号表
コンクリート 小型構造物 一般養生 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ 人力打設	8.5	m ³			単価 第0 -0020号表
型枠 一般型枠 小型構造物	30.4	m ²			単価 第0 -0019号表
ガードレール支柱鉄筋補強工 GR - C	11	箇所			単価 第0 -0021号表
目地板 30m ² 未満 瀝青質目地板	1.5	m ²			単価 第0 -0023号表
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 一般養生 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ バックホ(クレーン機能付)打設	1.5	m ³			単価 第0 -0015号表
基礎碎石 7.5cmを超え12.5cm以下 再生クラッシャーラン RC - 40	15.3	m ²			単価 第0 -0017号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
足場					
	22	m			単価 第0 -0024号表
小口止工					
コンクリート 無筋・鉄筋構造物 一般養生 夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ ハック杓(クレーン機能付)打設	1.7	m ³			単価 第0 -0025号表
型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物	12.3	m ²			単価 第0 -0026号表
基礎碎石 7.5cmを超え12.5cm以下 再生クラッシャラン RC - 40	0.7	m ²			単価 第0 -0017号表
目地板 30m ² 未満 瀝青質目地板	1.9	m ²			単価 第0 -0023号表
排水施設工					
横断溝工					
排水構造物工 自由勾配側溝 1000kg / 個以下 基礎碎石施工あり	5.0	m			単価 第0 -0027号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
排水構造物工 蓋版据付 グレーチング蓋版各種 40kg / 枚以下	2			枚					単価	第0 -0028号表
排水構造物工 蓋版据付 グレーチング蓋版各種 40kg / 枚以下	1			枚					単価	第0 -0029号表
側溝工										
プレキャストL形側溝（製品長0.6m） 据付・撤去 基礎砕石あり	5.4			m					単価	第0 -0030号表
集水枡工										
現場打ち集水枡・街渠枡（本体） 18-8-25(W/C=60%以下) 高炉（BB） 0.58m ³ を超え0.61m ³ 以下 一般養生・特殊養生（練炭）	1			箇所					単価	第0 -0031号表
排水構造物工 蓋版据付 グレーチング蓋版各種 40を超え170kg / 枚以下	1			枚					単価	第0 -0032号表
コンクリート分水口（枡） 900型	1			個						
プレキャスト集水枡 据付 600kgを超え800kg以下	1			基					単価	第0 -0033号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アスファルト舗装工					
表層（車道・路肩部） 3.0m超 平均仕上り厚40mm	161.1	m ²			単価 第0 -0038号表
上層路盤（車道・路肩部） 粒度調整砕石 全仕上り厚110mm	160.0	m ²			単価 第0 -0039号表
防護柵工					
防護柵工					
ガードレール設置工 Gr-C-2B Co建込 塗装品 手間のみ	20.0	m			単価 第0 -0040号表
ガードレール設置工 Gr-C-4E 土中建込 塗装品 手間のみ	4.0	m			単価 第0 -0041号表
ガードレール部材設置工（レール） 路側用 A・B・C種 曲線部（半径30m以下）なし	7.0	m			単価 第0 -0042号表
ガードレール撤去工 Gr-A, B, C-2B Co建込	18.0	m			単価 第0 -0043号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ガードレール撤去工 Gr - A , B , C - 4 E 土中建込	4.0	m			単価 第0 -0044号表
ガードレール部材撤去工(レール) 路側用 A ~ C種(歩車用旧Ap ~ Cp種)	9.0	m			単価 第0 -0045号表
構造物撤去工					
構造物取壊し工					
構造物とりこわし 無筋構造物 機械施工 低騒音・低振動対策 不要	60	m ³			単価 第0 -0046号表
構造物とりこわし 鉄筋構造物 機械施工 低騒音・低振動対策 不要	2	m ³			単価 第0 -0047号表
舗装版切断 アスファルト舗装版 15cm以下	26	m			単価 第0 -0048号表
舗装版破碎 アスファルト舗装版 障害等なし	156	m ²			単価 第0 -0049号表
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下	60	m ³			単価 第0 -0050号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
殻運搬 コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし 機械積込 DID区間なし 10.9km以下	2	m ³			単価 第0 -0051号表
殻運搬 舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下)	6	m ³			単価 第0 -0052号表
現場発生品及び支給品運搬 DID区間なし	0.4	t			単価 第0 -0053号表
現場発生品及び支給品積込み・荷卸し	0.4	t			単価 第0 -0054号表
* 処分費等 *					
廃材処理費 CO無筋	141	t			
廃材処理費 CO有筋	6	t			
廃材処理費 AS廃材	15	t			
廃材処理費 廃プラスチック	34	kg			

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
残土等処分					
	108	m ³			単価 第0 -0055号表
すべての諸経費の対象額に含めない					
スクラップ ヘビーH2(旧特級 B、H2)					
	0.3	t			
仮設工(任意仮設)					
作業土工(床掘工)					
	64	m ³			単価 第0 -0004号表
路体(築堤)盛土 2.5m以上4.0m未満					
	66	m ³			単価 第0 -0056号表
運搬 ダンプトラック 搬路状況良好 10t車 粘性土・砂・砂質土・礫質土 運搬距離0.5km 現場 仮置場					
	64	m ³			単価 第0 -0006号表
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m ³ [超小旋回型] ル・ズな状態の土砂積込 仮置土積込					
	73	m ³			単価 第0 -0007号表
運搬 ダンプトラック 搬路状況良好 10t車 粘性土・砂・砂質土・礫質土 運搬距離0.5km 仮置場 現場					
	73	m ³			単価 第0 -0006号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単 位	単 価	金 額	備 考
** 直接工事費 **						
** 共通仮設 費率計算額 **						
率 0.1375						
** 共通仮設費計 **						
** 純工事費 **						
** 現場管理 費 **						
率 0.3244						
** 工事原価 **						
** 一般管理 費等 **						
率 0.2011						
** 工事価格計 **						
** 消費税等 相当額計 **						
率 0.1000						

施工内訳表

単価 第0 -0009号表

1 m3 当り

埋戻し
最大埋戻幅1m以上4m未満

機械構成比: 9.76% 労務構成比: 81.50% 材料構成比: 8.74% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ[クローラ型]賃料 ~超低・排ガス2014	8.18%	日		バックホウ[クローラ型]賃料		
振動ローラ賃料	1.48%	日		振動ローラ[ハンドガイド式]賃料		
タンパ賃料 質量60~80kg 一ヶ月以上	0.10%	日		タンパ(ランマ)賃料		
普通作業員	39.69%	人		普通作業員		
特殊作業員	26.02%	人		特殊作業員		
運転手(特殊)	15.79%	人		運転手(特殊)		

施工内訳表

埋戻し
最大埋戻幅1m以上4m未満

単価 第0 -0009号表

1

m3 当り

機械構成比: 9.76% 労務構成比: 81.50% 材料構成比: 8.74% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	8.61%	L		軽油 パトロール給油		
ガソリン レギュラー	0.13%	L		ガソリン レギュラー スタンド		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
施工方法: 最大埋戻幅1m以上4m未満				豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ		

基面整正

施工内訳表

単価 第0 -0010号表

頁0-0026

1 m2 当り

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 100.00% 材料構成比: 0.00% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	100.00%	人		普通作業員		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

単価 第0 -0014号表

胴込・裏込材（碎石）

大型ブロック

再生クラッシャーラン RC - 40

1

m3 当り

機械構成比： 6.97% 労務構成比：

54.68% 材料構成比： 38.35%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 山積 0.8 m3	6.97%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
普通作業員	31.20%	人		普通作業員		
特殊作業員	13.92%	人		特殊作業員		
運転手 (特殊)	8.66%	人		運転手 (特殊)		
再生クラッシャーラン 40 mm以下	35.35%	m3		再生クラッシャーラン RC - 40		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	3.00%	L		軽油 パトロール給油		

施工内訳表

単価 第0 -0014号表

胴込・裏込材（碎石）

大型ブロック

再生クラッシュラン RC - 40

1

m3 当り

機械構成比： 6.97%

労務構成比： 54.68%

材料構成比： 38.35%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
ブロックの種類：大型ブロック 胴込・裏込材規格：再生クラッシュラン RC - 40				胴込・裏込材の有無：胴込・裏込材あり		

施工内訳表

単価 第0 -0015号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.79% 労務構成比:

35.68% 材料構成比:

60.53% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 山積 0.8 m3	3.58%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
特殊作業員	10.28%	人		特殊作業員		
普通作業員	9.55%	人		普通作業員		
土木一般世話役	7.10%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	6.64%	人		運転手 (特殊)		
生コン 18 - 8 - 25 (20) - BB (W/C = 60%以下)	58.70%	m3		生コンクリート 24 - 12 - 25 高炉 W/C 55%		

施工内訳表

単価 第0 -0015号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.79% 労務構成比: 35.68%

材料構成比: 60.53%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	1.73%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
構造物種別: 無筋・鉄筋構造物 養生工の種類: 一般養生 コンクリート規格: 18-8-25(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増: 夜間割増なし				打設工法: バックホ(クレーン機能付)打設 コンクリート種別: 高炉(BB) 生コンクリート小型車割増: 小型車割増なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

型枠

一般型枠

機械構成比： 0.00%

労務構成比： 100.00%

均しコンクリート

材料構成比： 0.00%

市場単価構成比： 0.00%

単価 第0 -0016号表

標準単価： 1

m² 当り

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	58.35%	人		型わく工		
普通作業員	20.27%	人		普通作業員		
土木一般世話役	6.13%	人		土木一般世話役		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
型枠の種類：一般型枠				構造物の種類：均しコンクリート		

施工内訳表

単価 第0 -0017号表

基礎碎石
7.5cmを超え12.5cm以下

再生クラッシャーラン RC - 40

機械構成比: 5.58% 労務構成比:

77.45% 材料構成比: 16.97%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価: 1

m 2 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型] 賃料 ~ 超低・排ガス2014	5.55%	日		バックホウ [クローラ型] 賃料		
普通作業員	37.13%	人		普通作業員		
特殊作業員	15.71%	人		特殊作業員		
運転手 (特殊)	14.81%	人		運転手 (特殊)		
土木一般世話役	9.27%	人		土木一般世話役		
再生クラッシャーラン 40 mm以下	11.93%	m 3		再生クラッシャーラン RC - 40		

施工内訳表

基礎碎石
7.5cmを超え12.5cm以下

再生クラッシャーラン RC - 40

単価 第0 -0017号表

1

m2 当り

機械構成比: 5.58%

労務構成比:

77.45%

材料構成比:

16.97%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	5.01%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
碎石の厚さ: 7.5cmを超え12.5cm以下				碎石の種類: 再生クラッシャーラン RC - 40		

施工内訳表

単価 第0 -0018号表

コンクリート 小型構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.69% 労務構成比:

37.88% 材料構成比:

58.43% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 山積 0.8 m3	3.49%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
普通作業員	11.17%	人		普通作業員		
特殊作業員	10.01%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	7.75%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	6.47%	人		運転手 (特殊)		
生コン 18 - 8 - 40 - BB (W/C = 60%以下)	56.64%	m3		生コンクリート 24 - 12 - 25 高炉 W/C 55%		

施工内訳表

単価 第0 -0018号表

コンクリート 小型構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.69% 労務構成比: 37.88%

材料構成比: 58.43%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	1.69%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
構造物種別: 小型構造物 養生工の種類: 一般養生 コンクリート規格: 18-8-40(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増: 夜間割増なし				打設工法: バックホ(クレーン機能付)打設 コンクリート種別: 高炉(BB) 生コンクリート小型車割増: 小型車割増なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

型枠 一般型枠 機械構成比： 0.00% 労務構成比： 100.00% 材料構成比： 0.00% 市場単価構成比： 0.00% 単価 第0 -0019号表

1 m2 当り
 標準単価：

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	43.77%	人		型わく工		
普通作業員	31.27%	人		普通作業員		
土木一般世話役	11.92%	人		土木一般世話役		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
型枠の種類：一般型枠				構造物の種類：小型構造物		

施工内訳表

コンクリート 小型構造物

一般養生

機械構成比: 0.00% 労務構成比: 42.01%

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

人力打設

材料構成比: 57.99% 市場単価構成比: 0.00%

単価 第0 -0020号表

標準単価: 1

m3 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	22.75%	人		普通作業員		
土木一般世話役	9.31%	人		土木一般世話役		
特殊作業員	7.89%	人		特殊作業員		
生コン18-8-40-BB (W/C=60%以下)	57.99%	m3		生コンクリート 24-12-25 高炉 W/C55%		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

単 価 表

単価 第0 -0022号表

鉄筋工
加工・組立

クレーン不要

1000

kg 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
異形棒鋼 SD295 D16	1.030	t			
土木一般世話役	0.20	人			鉄筋加工
鉄筋工	0.90	人			鉄筋加工
普通作業員	0.60	人			鉄筋加工
諸雑費	2.00	%			
土木一般世話役	0.30	人			鉄筋組立
鉄筋工	1.50	人			鉄筋組立
普通作業員	1.30	人			鉄筋組立
諸雑費	3.00	%			
*** 合 計 ***	1,000	kg			
*** 単位当り ***	1	kg			

施工内訳表

目地板
30m2未満

瀝青質目地板

単価 第0 -0023号表

1

m2 当り

機械構成比： 0.00% 労務構成比： 63.93% 材料構成比： 36.07% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	47.13%	人		普通作業員		
土木一般世話役	16.49%	人		土木一般世話役		
目地板材 厚10mm	36.07%	m ²		瀝青繊維質目地板 厚10mm		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
1工事当り使用量：30m2未満 目地板の規格：t=10mm				目地板の種類：瀝青質目地板		

施工内訳表

単価 第0 -0025号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホウ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.79% 労務構成比:

35.68% 材料構成比:

60.53% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 山積 0.8 m3	3.58%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
特殊作業員	10.28%	人		特殊作業員		
普通作業員	9.55%	人		普通作業員		
土木一般世話役	7.10%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	6.64%	人		運転手 (特殊)		
生コン 18 - 8 - 40 - BB (W/C = 60%以下)	58.70%	m3		生コンクリート 24 - 12 - 25 高炉 W/C 55%		

施工内訳表

単価 第0 -0025号表

コンクリート 無筋・鉄筋構造物

一般養生

夜間割増なし 豪雪割増 工種条件と同じ

バックホ(クレーン機能付)打設

1

m3 当り

機械構成比: 3.79% 労務構成比:

35.68% 材料構成比:

60.53% 市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	1.73%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
構造物種別: 無筋・鉄筋構造物 養生工の種類: 一般養生 コンクリート規格: 18-8-40(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増: 夜間割増なし				打設工法: バックホ(クレーン機能付)打設 コンクリート種別: 高炉(BB) 生コンクリート小型車割増: 小型車割増なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

型枠 一般型枠 鉄筋・無筋構造物 単価 第0 -0026号表
 機械構成比： 0.00% 労務構成比： 100.00% 材料構成比： 0.00% 市場単価構成比： 0.00%

1 m2 当り
 標準単価：

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
型わく工	46.19%	人		型わく工		
普通作業員	25.55%	人		普通作業員		
土木一般世話役	9.57%	人		土木一般世話役		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
型枠の種類：一般型枠				構造物の種類：鉄筋・無筋構造物		

施工内訳表

単価 第0 -0030号表

プレキャストL形側溝（製品長0.6m）

据付・撤去 基礎砕石あり

機械構成比： 5.87% 労務構成比： 68.35%

材料構成比： 25.78%

市場単価構成比： 0.00%

1
標準単価：

m 当り

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ(クローラ型) [標準型] クレーン付・排ガス1次 山積0.45m ³	4.64%	供用日		バックホウ(クローラ型) [標準型] クレーン付・排ガス1次		
普通作業員	30.44%	人		普通作業員		
土木一般世話役	12.25%	人		土木一般世話役		
運転手(特殊)	7.51%	人		運転手(特殊)		
特殊作業員	3.77%	人		特殊作業員		
鉄筋コンクリートL型 250B型	23.31%	本		鉄筋コンクリートL形 JIS5372 300 500×155×600		

施工内訳表

単価 第0 -0030号表

プレキャストL形側溝（製品長0.6m）

据付・撤去 基礎碎石あり

機械構成比： 5.87% 労務構成比： 68.35% 材料構成比： 25.78% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 m 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	1.95%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
作業区分：据付・撤去 L形側溝の種類：250B 鉄筋コンクリートL形(450×155×600)				基礎碎石の有無：基礎碎石あり 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

現場打ち集水桝・街渠桝（本体）
18-8-25(W/C=60%以下) 高炉（BB）

0.58m3を超え0.61m3以下

一般養生・特殊養生(練炭)

単価 第0 -0031号表

1

箇所 当り

機械構成比： 0.08% 労務構成比： 85.36%

材料構成比： 14.56%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ[クローラ型]賃料 ～超低・排ガス2014	0.08%	日		バックホウ[クローラ型]賃料		
型わく工	32.23%	人		型わく工		
普通作業員	29.31%	人		普通作業員		
土木一般世話役	11.26%	人		土木一般世話役		
特殊作業員	2.23%	人		特殊作業員		
生コン18-8-25(20)-BB (W/C=60%以下)	14.23%	m3		生コンクリート 18-8-25 高炉 W/C60%		

施工内訳表

現場打ち集水桝・街渠桝（本体）
18-8-25(W/C=60%以下) 高炉（BB）

0.58m3を超え0.61m3以下

一般養生・特殊養生(練炭)

単価 第0 -0031号表

1

箇所 当り

機械構成比： 0.08% 労務構成比： 85.36%

材料構成比： 14.56%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	0.07%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
1箇所当りコンクリート使用量：0.58m3を超え0.61m3以下 養生工の種類：一般養生・特殊養生(練炭) コンクリート規格：18-8-25(W/C=60%以下) 生コンクリート夜間割増：夜間割増なし				コンクリート打設工法：人力打設 コンクリート種別種類：高炉（BB） 生コンクリート小型車割増：小型車割増なし		

施工内訳表

単価 第0 -0033号表

プレキャスト集水桝

据付

600kgを超え800kg以下

1

基 当り

機械構成比: 9.59%

労務構成比:

88.39%

材料構成比:

2.02%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料 ~排ガス3次 山積0.28m ³	7.74%	日		バックホウ [クローラ型・クレーン付] 賃料		
運転手 (特殊)	28.21%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	27.01%	人		普通作業員		
土木一般世話役	13.06%	人		土木一般世話役		
特殊作業員	3.01%	人		特殊作業員		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	1.63%	L		軽油 パトロール給油		

施工内訳表

単価 第0 -0033号表

プレキャスト集水桝

据付

600kgを超え800kg以下

1

基 当り

機械構成比： 9.59%

労務構成比：

88.39%

材料構成比：

2.02%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
作業区分：据付 基礎碎石の有無：基礎碎石あり				製品質量(kg/基)：600kgを超え800kg以下		

施工内訳表

単価 第0 -0034号表

暗渠排水管

据付

波状管及び網状管継手材料費要

1

m 当り

機械構成比： 0.00%

労務構成比： 5.70%

材料構成比： 94.30%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
普通作業員	3.92%	人		普通作業員		
土木一般世話役	1.78%	人		土木一般世話役		
高密度ポリエチレン管(有孔・無孔) 波状管(シングル構造)、径400mm	94.30%	m		暗渠排水管 波状管 高密度ポリエチレン管(シングル) 300		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
作業区分：据付 呼び径：200～400mm				管種別：波状管及び網状管 継手材料費：継手材料費要		

施工内訳表

単価 第0 -0035号表

コンクリート削孔（電動ハンマドリル）
30mm以上200mm未満

機械構成比： 2.30% 労務構成比： 95.32% 材料構成比： 2.38% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1

孔 当り

代表機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代表機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
発動発電機賃料 ～低騒	1.10%	日		発動発電機 [ガソリンエンジン駆動] 賃料		
電動ハンマドリル 径 3 8 ~ 4 0 mm	0.77%	供用日		電動ハンマドリル		
特殊作業員	45.55%	人		特殊作業員		
普通作業員	18.52%	人		普通作業員		
土木一般世話役	13.43%	人		土木一般世話役		
ガソリン レギュラー	1.94%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施工内訳表

コンクリート削孔（電動ハンマドリル）
30mm以上200mm未満

単価 第0 -0035号表

1

孔 当り

機械構成比： 2.30% 労務構成比： 95.32% 材料構成比： 2.38% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価：

代表機 労 材 規 格	構成比	単 位	単 価	代表機 労 材 規 格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
削孔深さ：30mm以上200mm未満				豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

止杭打込
鉄筋打込み手間

単価 第0 -0037号表

1

本 当り

機械構成比： 0.00% 労務構成比： 71.56% 材料構成比： 28.44% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単 価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備 考
普通作業員	71.56%	人		普通作業員		
止杭（松丸太）	28.44%	本		杭丸太（松） 長1.5m×末口9cm 皮付 先端加工		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

単価 第0 -0038号表

表層(車道・路肩部)
3.0m超

平均仕上り厚 40mm

1 m2 当り

機械構成比: 1.35% 労務構成比: 9.47% 材料構成比: 89.18% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
アスファルトフィニッシャ[ホイール]賃料 ~排2014・超低	0.87%	日		アスファルトフィニッシャ[ホイール]賃料		
タイヤローラ賃料 ~排3次・超低	0.13%	日		タイヤローラ賃料		
ロードローラ[マカダム]賃料 ~排2014・超低	0.13%	日		ロードローラ[マカダム]賃料		
普通作業員	3.39%	人		普通作業員		
運転手(特殊)	1.94%	人		運転手(特殊)		
特殊作業員	1.89%	人		特殊作業員		

施工内訳表

表層(車道・路肩部)

3.0m超

平均仕上り厚 40mm

単価 第0 -0038号表

1

m2 当り

機械構成比: 1.35%

労務構成比: 9.47%

材料構成比: 89.18%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
土木一般世話役	0.67%	人		土木一般世話役		
再生アスファルト混合物 密粒度(13F)[再生材 混入率50%以下]	81.56%	t		アスファルト混合物 密粒度(20)		
アスファルト乳剤 PK-3プライムコート用	7.06%	L		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	0.47%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

上層路盤（車道・路肩部）

粒度調整碎石

機械構成比：

9.88%

労務構成比：

全仕上り厚 110 mm

33.13%

材料構成比：

56.99%

市場単価構成比：

単価 第0 -0039号表

0.00%

標準単価：

1

m² 当り

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
モータグレーダ [土工用] 排ガス2次 ブレード幅 3.1 m	3.96%	供用日		モータグレーダ [土工用] 排ガス2次		
ロードローラ [マカダム] 排ガス2次 運転質量 10 t	3.13%	供用日		ロードローラ [マカダム] 排ガス2次		
タイヤローラ賃料 ～排3次・超低	1.01%	日		タイヤローラ賃料		
運転手 (特殊)	15.46%	人		運転手 (特殊)		
特殊作業員	5.15%	人		特殊作業員		
普通作業員	5.03%	人		普通作業員		

施工内訳表

上層路盤（車道・路肩部）

単価 第0 -0039号表

粒度調整碎石

全仕上り厚 110 mm

1

m² 当り

機械構成比：

9.88%

労務構成比：

33.13%

材料構成比：

56.99%

市場単価構成比：

0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
土木一般世話役	1.52%	人		土木一般世話役		
粒調碎石 40 mm以下	53.57%	m ³		再生粒度調整碎石 RM - 40		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	2.81%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
材料：粒度調整碎石 施工区分：1層施工 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				全仕上り厚(mm)：110 材料(粒度調整碎石)：粒度調整碎石 M - 40		

施工内訳表

頁0-0077

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比： 15.42%

労務構成比： 57.13%

15cm以下

材料構成比： 27.45%

市場単価構成比： 0.00%

単価 第0 -0048号表

標準単価： 1

m 当り

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音 切削深20cm級 B径56cm	10.49%	供用日		コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		
特殊作業員	19.60%	人		特殊作業員		
土木一般世話役	10.55%	人		土木一般世話役		
普通作業員	8.73%	人		普通作業員		
コンクリートカッタ(ブレード) 径45cm	23.29%	枚		ブレード(コンクリートカッタ) 径18インチ(45cm)		
ガソリン レギュラー	2.83%	L		ガソリン レギュラー スタンド		

施工内訳表

舗装版切断
アスファルト舗装版
機械構成比： 15.42%

労務構成比： 57.13%

15cm以下

材料構成比： 27.45%

市場単価構成比： 0.00%

単価 第0 -0048号表

標準単価： 1

m 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ				アスファルト舗装版厚：15cm以下		

施工内訳表

単価 第0 -0049号表

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比： 13.49%

労務構成比： 80.49%

障害等なし

材料構成比： 6.02%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価： 1

m 2 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～排2014・超低	13.49%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
土木一般世話役	28.91%	人		土木一般世話役		
運転手 (特殊)	27.69%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	23.89%	人		普通作業員		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	6.02%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

施工内訳表

単価 第0 -0049号表

舗装版破碎
アスファルト舗装版
機械構成比： 13.49%

労務構成比： 80.49%

障害等なし

材料構成比： 6.02%

市場単価構成比： 0.00%

標準単価： 1

m2 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
*** 単位当り ***						
舗装版種別：アスファルト舗装版 騒音振動対策：騒音振動対策不要 積込作業の有無：積込作業あり				障害等の有無：障害等なし 舗装版厚：15cm以下 豪雪割増：豪雪割増 工種条件と同じ		

施工内訳表

単価 第0 -0050号表

殻運搬

コンクリート(無筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1

m3 当り

機械構成比: 41.69% 労務構成比:

43.88% 材料構成比: 14.43%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	41.69%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	43.88%	人		運転手 (一般)		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	14.43%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業: コンクリート(無筋)構造物とりこわし DID区間の有無: DID区間なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分: 機械積込 運搬距離: 10.9km以下		

施工内訳表

単価 第0 -0051号表

殻運搬

コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし

機械積込 DID区間なし 10.9km以下

1

m3 当り

機械構成比: 41.69% 労務構成比: 43.88%

材料構成比: 14.43%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機材規格	構成比	単位	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	41.69%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	43.88%	人		運転手 (一般)		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	14.43%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業: コンクリート(鉄筋)構造物とりこわし DID区間の有無: DID区間なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分: 機械積込 運搬距離: 10.9km以下		

施工内訳表

殻運搬

単価 第0 -0052号表

舗装版破碎 DID区間なし 11.5km以下

機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下)

1

m3 当り

機械構成比: 44.95% 労務構成比:

38.97% 材料構成比: 16.08%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級	44.95%	供用日		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		
運転手 (一般)	38.97%	人		運転手 (一般)		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	16.08%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						
殻発生作業: 舗装版破碎 DID区間の有無: DID区間なし 豪雪割増: 豪雪割増 工種条件と同じ				積込工法区分: 機械積込(騒音対策不要、舗装版厚15cm以下) 運搬距離: 11.5km以下		

施工内訳表

DID区間なし
 機械構成比: 13.58% 労務構成比: 83.54% 材料構成比: 2.88% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1 t 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
トラック [クレーン装置付] 2 t積 2.9 t吊	13.58%	供用日		トラック [クレーン装置付]		
運転手 (特殊)	42.54%	人		運転手 (特殊)		
特殊作業員	41.00%	人		特殊作業員		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	2.88%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

機械構成比： 13.52% 労務構成比： 83.62% 材料構成比： 2.86% 市場単価構成比： 0.00% 標準単価： 1 t 当り

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
トラック [クレーン装置付] 2 t 積 2.9 t 吊	13.52%	供用日		トラック [クレーン装置付]		
運転手 (特殊)	42.39%	人		運転手 (特殊)		
特殊作業員	40.83%	人		特殊作業員		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	2.86%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		
*** 単位当り ***						

施工内訳表

単価 第0 -0056号表

路体（築堤）盛土
2.5m以上4.0m未満

1 m3 当り

機械構成比： 15.86% 労務構成比： 75.54% 材料構成比： 8.60% 市場単価構成比： 0.00%

標準単価：

代表機労材規格	構成比	単位	単価	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料 ～排2014・超低	8.30%	日		バックホウ [クローラ・後方超小旋回] 賃料		
振動ローラ(搭乗式コンバインド型)賃料 3～4t 一ヶ月以上	7.56%	日		振動ローラ [搭乗式・コンバインド型] 賃料		
運転手 (特殊)	66.88%	人		運転手 (特殊)		
普通作業員	8.66%	人		普通作業員		
軽油 (小型ローリー、パトロール給油)	8.60%	L		軽油 パトロール給油		
積算単価		式		積算単価		

R7一の沢線

数量計算書

数量総括表

工種	種別	細別	計算式	数量	単位
土工					
残土処理工					
	運搬	DT10t L=10.1km	「切土工数量計算表」参照	107.9	m ³
擁壁工					
作業土工					
	床掘	BH0.45m ³ 土砂	「擁壁工数量計算表」参照	586.9	m ³
	運搬	仮置土 DT10t L=0.5km	〃	352.4	m ³
	積込	仮置土掘削	〃	352.4	m ³
	運搬	仮置土 DT10t L=0.5km	〃	352.4	m ³
	埋戻し	最大埋戻幅1m以上4m未満	〃	317.2	m ³
	基面整正		〃	39.9	m ²
プレキャスト擁壁工					
	標準ブロック	H500×B370×L1000	「垂直擁壁工数量計算表」参照	237	個
	L型金網 100型	H500×B650×L1000	〃	19	個
	L型金網 150型	H500×B1150×L1000	〃	48	個

数 量 総 括 表

工 種	種 別	細 別	計 算 式	数 量	単 位
	L型金網 200型	H500×B1650×L1000	「垂直擁壁工数量計算表」参照	81	個
	L型金網 250型	H500×B2150×L1000	〃	71	個
	L型金網 300型	H500×B2650×L1000	〃	18	個
	根石ブロック 110型	H500×B1100×L1000	〃	3	個
	根石ブロック 130型	H500×B1300×L1000	〃	4	個
	根石ブロック 180型	H500×B1800×L1000	〃	15	個
	端部金網 50型	H500×B500	〃	35	枚
	端部金網 100型	H500×B900	〃	9	枚
	端部金網 150型	H500×B1400	〃	15	枚
	端部金網 200型	H500×B1900	〃	3	枚
	端部金網 300型	H500×B2900	〃	4	枚
	中詰材保持シート	W600×t0.5mm	〃	361	m
	吸出防止材	t=10mm	〃	55.0	m ²
	組立・設置工	標準ブロック・L型金網	〃	118.5	m ²
	組立・設置工	根石ブロック	〃	11.0	m ²

数 量 総 括 表

工 種	種 別	細 別	計 算 式	数 量	単 位
	組立・設置工	端部網	「垂直擁壁工数量計算表」参照	32.0	m ²
	中詰・裏込砕石	RC-40	〃	250.3	m ³
	基礎コンクリート	18-8-25BB	〃	4.0	m ³
	型枠工	均しコンクリート	〃	4.4	m ²
	基礎砕石工	t=10cm RC-40	〃	39.9	m ²
	間詰コンクリート	18-8-40BB	〃	5.9	m ³
	型枠工	小型構造物	〃	17.9	m ²
	天端コンクリート	18-8-40BB	〃	8.5	m ³
	型枠工	小型構造物	〃	30.4	m ²
	ガードレール支柱鉄筋補強工	Gr-C-2B	〃	11	箇所
	目地材	厚10mm	〃	1.5	m ²
	遮水コンクリート	18-8-25BB	〃	1.5	m ³
	基礎砕石工	t=10cm RC-40	〃	15.3	m ²
	足場工	キャットウォーク	〃	22.0	m

数量総括表

工種	種別	細別	計算式	数量	単位
小口止工					
	小口止コンクリート	18-8-40BB	「垂直擁壁構造図(1)」参照	1.7	m ³
	型枠工	無筋構造物	〃	12.3	m ²
	基礎砕石工	t=10cm RC-40	〃	0.7	m ²
	目地材	厚10mm	〃	1.9	m ²
排水施設工					
横断溝工					
	自由勾配側溝	400×700	「排水施設工数量計算表」参照	5.0	m
	グレーチング	400用 L=1.0m	〃	2	枚
	グレーチング	400用 L=0.5m	〃	1	枚
側溝工					
	UL側溝350型	撤去・据付	「排水施設工数量計算表」参照	5.4	m
集水柵工					
	現場打ち集水柵		「排水施設工数量計算表」参照	1	基
	グレーチング	柵蓋800用	〃	1	枚

数量総括表

工種	種別	細別	計算式	数量	単位
	コンクリート分水口	900型	「排水施設工数量計算表」参照	1	個
	プレキャスト集水柵	据付	〃	1	基
流末処理工					
	ポリエチレン管	φ400 波状管	「排水施設工数量計算表」参照	33.5	m
	90° エルボ	φ400用	〃	1	ヶ
	固定バンド	φ400用	〃	5	ヶ
	セットアンカー	M10×120mm	〃	10	個
	コンクリート削孔	30mm以上200mm未満	〃	10	孔
	鉄筋工	止杭 D19	〃	0.101	t
	止杭打込	鉄筋打込手間	〃	30	本
舗装工					
アスファルト舗装工					
	表層	再生 密粒度アスコン13F t=4cm	「舗装工数量計算表」参照	161.1	m ²
	上層路盤工	粒度調整砕石M-40 t=11cm	〃	160.0	m ²

数 量 総 括 表

工 種	種 別	細 別	計 算 式	数 量	単 位
防護柵工					
防護柵工					
	ガードレール設置工	Gr-C-2B 手間のみ	「防護柵工数量計算表」参照	20.0	m
	ガードレール設置工	Gr-C-4E 手間のみ	〃	4.0	m
	ガードレール部材設置工	レール 手間のみ	〃	7.0	m
	ガードレール撤去工	Gr-C-2B	〃	18.0	m
	ガードレール撤去工	Gr-C-2B	〃	4.0	m
	ガードレール部材撤去工	レール 手間のみ	〃	9.0	m
構造物撤去工					
構造物取壊し工					
	構造物取壊し	無筋構造物	「構造物撤去工数量計算表」参照	60.0	m ³
	構造物取壊し	鉄筋構造物	〃	2.4	m ³
	舗装版切断	アスファルト	〃	26.1	m
	舗装版破碎	アスファルト	〃	155.5	m ²
	殻運搬	無筋コンクリート L=8.3km	〃	60.0	m ³

数 量 総 括 表

工 種	種 別	細 別	計 算 式	数 量	単 位
	殻運搬	鉄筋コンクリート L=8.3km	「構造物撤去工数量計算表」参照	2.4	m ³
	殻運搬	アスファルト L=8.3km	〃	6.2	m ³
	現場発生品運搬	クレーン付2t級 L=16.5km	〃	0.4	t
	現場発生品積込み・荷卸し	クレーン付2t級	〃	0.4	t
処分費等					
	処分費	無筋コンクリート	「構造物撤去工数量計算表」参照	141.0	t
	処分費	鉄筋コンクリート	〃	6.0	t
	処分費	アスファルト	〃	14.6	t
	処分費	廃プラスチック	〃	33.8	kg
	残土等処分	残土	「残土処理数量計算表」参照	107.9	m ³
	スクラップ	ヘビーH2	「構造物撤去工数量計算表」参照	0.3	t
仮設工					
工事用道路					
	床掘	BH0.8m ³ 土砂	「仮設工数量計算表」参照	63.7	m ³
	盛土工		〃	65.6	m ³

残土処理数量計算表

R7一の沢線

区分	切取	換算率	地山換算	飛散率%	飛散量	土量	盛土	換算率	土量	位置
掘削	0.0	1.0	0.0	10%	0.0	0.0				
盛土							0.0	0.90	0.0	
掘削(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
盛土							0.0	0.90	0.0	
床掘	586.9	1.0	586.9	20%	117.4	469.5				
床掘										
埋戻し							317.2	0.90	352.4	
床掘(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
埋戻し							0.0	0.90	0.0	
人力	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
人力(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
									9.2	進入路に流用
小計	586.9		586.9		117.4	469.5	317.2		361.6	

残土合計 107.9

垂直擁壁工 数量計算表

工 種	細 別	計 算 式	数 量	単 位	
垂直擁壁工					
組立・設置	標準ブロック	$237 \times 0.5 =$	118.5	m ²	
組立・設置	根石ブロック	$(3 + 4 + 15) \times 0.5 =$	11.0	m ²	
組立・設置	端部網 50型	$0.5 \times 0.5 \times 35 = 8.75$			
組立・設置	端部網 100型	$0.5 \times 0.9 \times 9 = 4.05$			
組立・設置	端部網 150型	$0.5 \times 1.4 \times 15 = 10.50$			
組立・設置	端部網 200型	$0.5 \times 1.9 \times 3 = 2.85$			
組立・設置	端部網 300型	$0.5 \times 2.9 \times 4 = 5.80$			
		計 =	31.95	m ²	
胴込・裏込材	RC-40	中詰材	=	220.92	m ³
		根石ブロック中詰材	=	8.16	m ³
		裏込め砕石	=	21.26	m ³
		計 =	250.34	m ³	

【 数量計算書 】

垂直擁壁

【垂直擁壁 コンクリートブロック個数】

割付図面より算出

標準ブロック	H500 × L1000 × B370	237	個(m)(0.5m2)
水位ブロック(T35)	H500 × L1000 × B370	0	個(m)(0.5m2)
根石ブロック100型	H500 × L1000 × B1000	0	個(m)(0.5m2)
根石ブロック110型	H500 × L1000 × B1100	3	個(m)(0.5m2)
根石ブロック130型	H500 × L1000 × B1300	4	個(m)(0.5m2)
根石ブロック180型	H500 × L1000 × B1800	15	個(m)(0.5m2)
コーナーブロック	H500 × L1000 × B120	0	個(m)(0.5m2)
天端ブロック300型	H300 × L1000 × B70	0	個(m)(0.5m2)
天端ブロック500型	H500 × L1000 × B70	0	個(m)(0.5m2)

【垂直擁壁 L型金網】

割付図面より算出

標準	100型	H500 × L1000 × B650	19	個(0.5m2)
	150型	H500 × L1000 × B1150	48	個(0.5m2)
	200型	H500 × L1000 × B1650	81	個(0.5m2)
	250型	H500 × L1000 × B2150	71	個(0.5m2)
	300型	H500 × L1000 × B2650	18	個(0.5m2)
	350型	H500 × L1000 × B3150	0	個(0.5m2)
T-35	100型(T35)	H500 × L1000 × B650	0	個(0.5m2)
	150型(T35)	H500 × L1000 × B1150	0	個(0.5m2)
	200型(T35)	H500 × L1000 × B1650	0	個(0.5m2)
	250型(T35)	H500 × L1000 × B2150	0	個(0.5m2)
	300型(T35)	H500 × L1000 × B2650	0	個(0.5m2)
	350型(T35)	H500 × L1000 × B3150	0	個(0.5m2)

【垂直擁壁 端部金網】

割付図面より算出

端部金網 50型	H500 × B 500	35	枚
端部金網 100型	H500 × B 900	9	枚
端部金網 150型	H500 × B1400	15	枚
端部金網 200型	H500 × B1900	3	枚
端部金網 250型	H500 × B2400	0	枚
端部金網 300型	H500 × B2900	4	枚
端部金網 350型	H500 × B3400	0	枚

【垂直擁壁 中詰材保護シート】

金網総延長(L型金網、端部金網)+L型金網の上下サイズ切り替わり箇所の延長

中詰材保護シート 幅600 × 厚さ0.5mm 361.0 m

【垂直擁壁 吸出防止シート】

L型金網最上段延長

※吸出防止シートW=3m(は1m+2mとして分けて計上) 幅1000 × 厚さ10mm 13.0 m 13.0 m2

※吸出防止シートの算出幅は標準断面図参照 幅2000 × 厚さ10mm 21.0 m 42.0 m2

水位ブロック用

算式 = (T35ブロック+根石ブロック) × 0.5 = 幅 100 × 厚さ10mm 0.0 m 0.0 m2

合計 55.0 m2

【 数量計算書 】

垂直擁壁

〔垂直擁壁 中詰材〕

各L型金網規格 設定数値中詰材m3/m2数量より中詰材料算出

100型	0.82 (m3/m2)	算式 = (100型m2数 × 0.82) + (150型m2数 × 1.32) + (200型m2数 × 1.82) + (250型m2数 × 2.32) + (300型m2数 × 2.82) + (350型m2数 × 3.32)				
150型	1.32 (m3/m2)					
200型	1.82 (m3/m2)					
250型	2.32 (m3/m2)			規格	RC40-0	220.92
300型	2.82 (m3/m2)					m3
350型	3.32 (m3/m3)					
T35 100型	0.63 (m3/m2)	算式 = (T35 100型m2数 × 0.63) + (T35 150型m2数 × 1.13) + (T35 200型m2数 × 1.63) + (T35 250型m2数 × 2.13) + (T35 300型m2数 × 2.63) + (T35 350型m2数 × 3.13)				
T35 150型	1.13 (m3/m2)					
T35 200型	1.63 (m3/m2)					
T35 250型	2.13 (m3/m2)			規格	C40-0	0.00
T35 300型	2.63 (m3/m2)					m3
T35 350型	3.13 (m3/m3)					

※河川での計画の場合、水位ブロック (T35) の中詰碎石はクラッシャーラン (C40) を使用して下さい。

〔垂直擁壁 根石ブロック中詰材〕

根石ブロック規格 設定数値中詰材m3/m2数量より中詰材料算出

根石ブロック100型	0.53 (m3/m2)	算式 = (根石100型m2数 × 0.53) + (根石110型m2数 × 0.53) + (根石130型m2数 × 0.53) + (根石180型m2数 × 0.84) =			
根石ブロック110型	0.53 (m3/m2)				
根石ブロック130型	0.53 (m3/m2)				
根石ブロック180型	0.84 (m3/m2)			規格	RC40-0
根石ブロック100型(水位)	0.53 (m3/m2)	算式 = (根石100型m2数 × 0.53) + (根石110型m2数 × 0.53) + (根石130型m2数 × 0.53) + (根石180型m2数 × 0.84) =			
根石ブロック110型(水位)	0.53 (m3/m2)				
根石ブロック130型(水位)	0.53 (m3/m2)				
根石ブロック180型(水位)	0.84 (m3/m2)			規格	C40-0

※河川での計画の場合、根石(水位)の中詰碎石はクラッシャーラン (C40) を使用して下さい。

〔垂直擁壁 裏込碎石〕

※擁壁高さ5.0m以上、または水位・湧水がある場合に施工

	裏込量 (m3/m)	延長 (m)	体積 (m3)
裏込 (1)	1.21	1	1.21
裏込 (2)	1.90	1	1.90
裏込 (3)	1.21	15	18.15
裏込 (4)			
裏込 (5)			
裏込 (6)			
裏込 (7)			
裏込 (8)			
裏込 (9)			
裏込 (10)			
計		17.00	21.26
掘削勾配	規格		
0.6	RC40-0		
	21.26	m3	

【 数量計算書 】

垂直擁壁

〔垂直擁壁 敷モルタル〕

規格

1:3

$$\begin{aligned} \text{算式} = & (\text{根石100個数} \times 1.0 \times \text{厚}0.02) + (\text{根石110個数} \times 1.1 \times \text{厚}0.02) \\ & + (\text{根石130個数} \times 1.3 \times \text{厚}0.02) + (\text{根石180個数} \times 1.8 \times \text{厚}0.02) = \end{aligned}$$

0.71 m³

〔垂直擁壁 基礎コンクリート〕

規格

18-8-40BB

$$\begin{aligned} \text{算式} = & (\text{根石100個数} \times 1.2 \times \text{厚}0.1) + (\text{根石110個数} \times 1.3 \times \text{厚}0.1) \\ & + (\text{根石130個数} \times 1.5 \times \text{厚}0.1) + (\text{根石180個数} \times 2.0 \times \text{厚}0.1) = \end{aligned}$$

3.99 m³

〔垂直擁壁 基礎碎石〕

規格

RC40-0

$$\begin{aligned} \text{算式} = & (\text{根石100個数} \times 1.2) + (\text{根石110個数} \times 1.3) \\ & + (\text{根石130個数} \times 1.5) + (\text{根石180個数} \times 2.0) = \end{aligned}$$

39.9 m²

〔垂直擁壁 基礎コンクリート型枠面積〕

$$\text{算式} = (\text{根石100個数} + \text{根石110個数} + \text{根石130個数} + \text{根石180個数}) \times \text{厚}0.1 \times 2 =$$

4.4 m²

〔垂直擁壁 目地ロープ〕

$$\text{算式} = (\text{標準ブロック} + \text{根石ブロック}) \times 0.5 =$$

129.5 m

〔垂直擁壁 特殊プレート〕

$$\text{算式} = (\text{天端ブロック500型} + \text{天端ブロック施工列数}) \times 2 =$$

0 枚

〔垂直擁壁 伸縮目地〕

割付図面数値より算出

天端伸縮目地

NO	h(m)	断面(m ²)
目地(1)	0.567	0.307
目地(2)	1.523	1.189
目地(3)	0.000	0.000
目地(4)	0.000	0.000
目地(5)	0.000	0.000
目地(6)	0.000	0.000
目地(7)	0.000	0.000
目地(8)	0.000	0.000
目地(9)	0.000	0.000
目地(10)	0.000	0.000
目地(11)	0.000	0.000
目地(12)	0.000	0.000
目地(13)	0.000	0.000
目地(14)	0.000	0.000
目地(15)	0.000	0.000
計		1.50

$$\therefore \text{伸縮目地(1)} + \sim + \text{伸縮目地(15)} =$$

1.50 m²

【 数量計算書 】

垂直擁壁

〔垂直擁壁 天端コンクリート量〕

規格	18-8-40BB
----	-----------

割付図面数値より算出

天端コンクリート量

NO	h1 (m)	h2 (m)	h1断面 (m ²)	h2断面 (m ²)	L (m)	体積 (m ³)
天端(1)	0.670	0.493	0.380	0.258	12.000	3.829
天端(2)	1.493	1.523	1.154	1.189	2.000	2.344
天端(3)	0.523	0.623	0.278	0.346	5.731	1.788
天端(4)	0.623	0.637	0.346	0.356	2.269	0.797
控除	0.000	0.000	0.324	0.324	0.530	-0.172
控除	0.000	0.000	0.166	0.166	0.300	-0.050
天端(7)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(8)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(9)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(10)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(11)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(12)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(13)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(14)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(15)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(16)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(17)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(18)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(19)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(20)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(21)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(22)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(23)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(24)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(25)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(26)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(27)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(28)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(29)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端(30)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
計					22.30	8.54

∴天端コン(1)+～+天端コン(30) = 8.54 m³

【 数量計算書 】

垂直擁壁

〔垂直擁壁 天端コンクリート型枠〕

割付図面数値より算出

天端コンクリート型枠面積

NO	h1 (m)	h2 (m)	前面 (m2)	背面 (m2)	L (m)	面積 (m2)
天端 (1)	0.670	0.493	6.978	7.801	12.000	14.779
天端 (2)	1.493	1.523	3.016	3.372	2.000	6.388
天端 (3)	0.523	0.623	3.284	3.671	5.731	6.955
天端 (4)	0.623	0.637	1.429	1.598	2.269	3.028
控除	0.955	0.955	0.000	0.566	0.530	-0.566
控除	0.000	0.000	-0.166	0.000	0.000	-0.166
天端 (7)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (8)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (9)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (10)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (11)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (12)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (13)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (14)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (15)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (16)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (17)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (18)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (19)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (20)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (21)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (22)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (23)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (24)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (25)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (26)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (27)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (28)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (29)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
天端 (30)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
計					22.00	30.42

∴天端コン型枠(1)+～+天端コン型枠(30) = 30.4 m2

【 数量計算書 】

垂直擁壁

〔垂直擁壁 間詰コンクリート〕

割付図面数値より算出

	規格	掘削高さ H(m)	幅(根石 幅+0.2m)	箇所数	1箇所あた りの体積 (m ³ /箇所)	体積 (m ³)
間詰Co(1)	18-8-40BB	1.00	1.30	1	0.780	0.78
間詰Co(2)	18-8-40BB	0.50	1.30	1	0.338	0.34
間詰Co(3)	18-8-40BB	1.00	1.30	3	0.900	2.70
間詰Co(4)	18-8-40BB	0.50	1.80	2	0.450	0.90
間詰Co(5)	18-8-40BB	1.00	1.80	1	1.200	1.20
間詰Co(6)	18-8-40BB					
間詰Co(7)	18-8-40BB					
間詰Co(8)	18-8-40BB					
間詰Co(9)	18-8-40BB					
間詰Co(10)	18-8-40BB					

∴ 間詰Co(1)+～+間詰Co(10) = 5.92 m³

〔垂直擁壁 間詰コンクリート型枠〕

割付図面数値より算出

	掘削高さ H(m)	幅(根石 幅+0.2m)	箇所数	1箇所あた りの面積 (m ² /箇所)	型枠面積 (m ²)
間詰Co(1)	1.00	1.10	1	2.50	2.5
間詰Co(2)	0.50	1.30	1	1.20	1.2
間詰Co(3)	1.00	1.30	3	2.70	8.1
間詰Co(4)	0.50	1.80	2	1.45	2.9
間詰Co(5)	1.00	1.80	1	3.20	3.2
間詰Co(6)					
間詰Co(7)					
間詰Co(8)					
間詰Co(9)					
間詰Co(10)					

∴ 間詰Co(1)+～+間詰Co(10) = 17.9 m²

排水施設工数量計算表

工種	細別	計 算 式	数 量	単 位
集水枳 (1)				
現場打ち集水枳	B800-L800-H900	=	1	基
コンクリート	18-8-25BB	① $1.10 \times 1.10 \times 1.05 = 1.27 \text{ m}^3$		
		② $-0.80 \times 0.80 \times 0.90 = -0.58 \text{ m}^3$		
		控除 (横断溝) $0.53 \times 0.86 \times 0.15 = -0.07$		
		控除 (グレーチング) $= -0.02$		
		=	0.60	m^3
グレーチング蓋	枳蓋800用	=	1	枚
集水枳 (2)				
分水口底付	900型	=	1	個
プレキャスト集水枳	据付	=	1	基

構 造 物 撤 去 工 数 量 計 算 表

工 種	細 別	計 算 式	数 量	単 位
構造物取壊し工				
構造物取壊し	ブロック積	$(1.07+3.25)/2 \times 3.0 + 3.48 \times 9.0 + (2.93+2.33)/2 \times 1.3 + 2.16 \times (5.4+2.9) =$	59.1	m ³
	集水枿 (1)	$1.15 \times 1.10 \times 1.10 - 0.8 \times 0.8 \times 1.0 - 0.63 \times 0.96 \times 0.20 =$	0.6	m ³
	集水枿 (2)	$1.10 \times 0.95 \times 0.15 + (0.80+0.42)/2 \times 0.95 \times 0.15 \times 2 + 0.42 \times 0.80 \times 0.05 - 0.166 \times 0. =$	0.3	m ³
		計 =	60.0	m ³
構造物取壊し	自由勾配側溝	$0.35 \times 4.0 + 0.33 \times 2.0 + 0.376 =$	2.4	m ³
舗装版切断	アスファルト	「構造図 (2)」参照	26.1	m
舗装版破碎	アスファルト	〃	155.5	m ²
殻運搬	ダンプトラック10t	無筋コンクリート	60.0	m ³
殻運搬	ダンプトラック10t	鉄筋コンクリート	2.4	m ³
殻運搬	ダンプトラック10t	アスファルト $155.5 \times 0.04 =$	6.2	m ³

構 造 物 撤 去 工 数 量 計 算 表

工 種	細 別	計 算 式	数 量	単 位
現場発生品運搬		=	1	回
		横断400用 3 枚 × 45.8 kg/枚 = 137.4 kg		
		柵蓋800用 1 枚 × 117.9 kg/枚 = 117.9 kg		
		コルゲートA-350型 4.0 m × 15.5 kg/m = 62.0 kg		
		ポリエチレン管φ400 1 本 × 33.8 kg/本 = 33.80 kg		
		計 =	351.1	kg
処分費				
廃材処理費	無筋コンクリート	60.0 × 2.35 =	141.0	t
廃材処理費	鉄筋コンクリート	2.4 × 2.50 =	6.0	t
廃材処理費	アスファルト	6.2 × 2.35 =	14.6	t
廃材処理費	プラスチック	=	33.8	kg
スクラップ	へビーH3	(137.4 + 117.9 + 62.0) ÷ 1000 =	0.32	t

残土処理数量計算表(仮設)

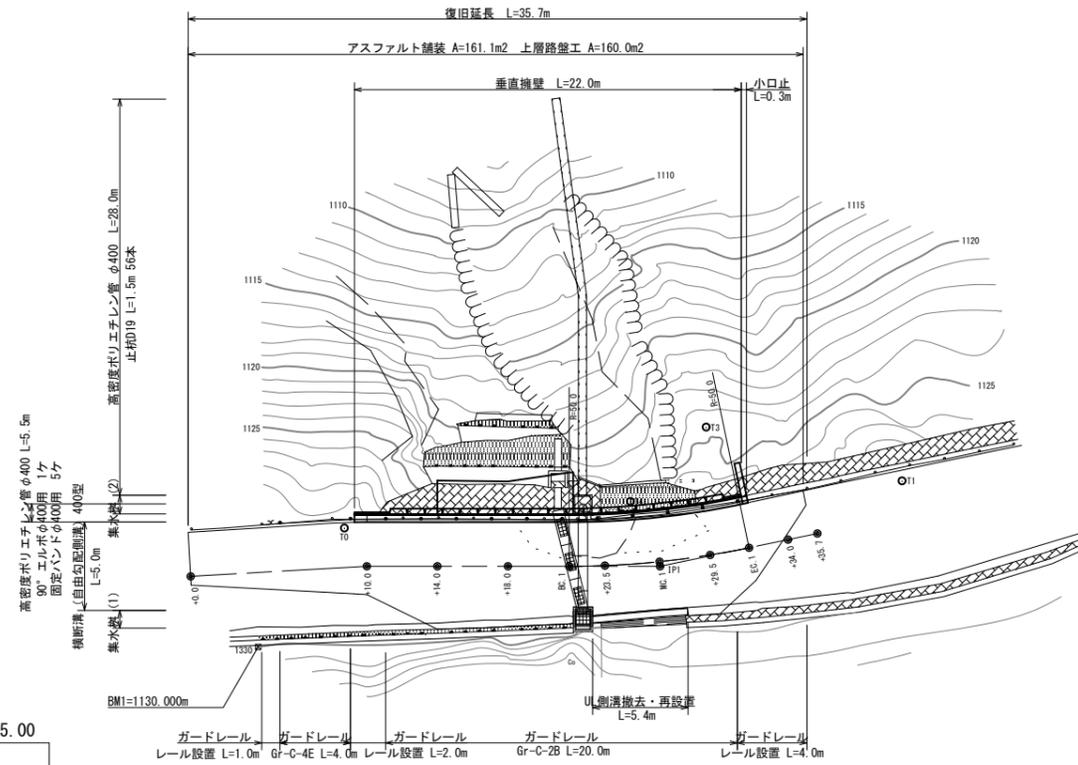
R7一の沢線

仮設工

区分	切取	換算率	地山換算	飛散率%	飛散量	土量	盛土	換算率	土量	位置
掘削	0.0	1.0	0.0	10%	0.0	0.0				
盛土							0.0	0.90	0.0	
掘削(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
盛土							0.0	0.90	0.0	
床掘	63.7	1.0	63.7	0%	0.0	63.7				
埋戻し							65.6	0.90	72.9	
床掘(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
埋戻し							0.0	0.90	0.0	
人力	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
人力(ルーズ)	0.0	1.2	0.0	10%	0.0	0.0				
小計	63.7		63.7		0.0	63.7	65.6		72.9	

残土合計 (9.2)

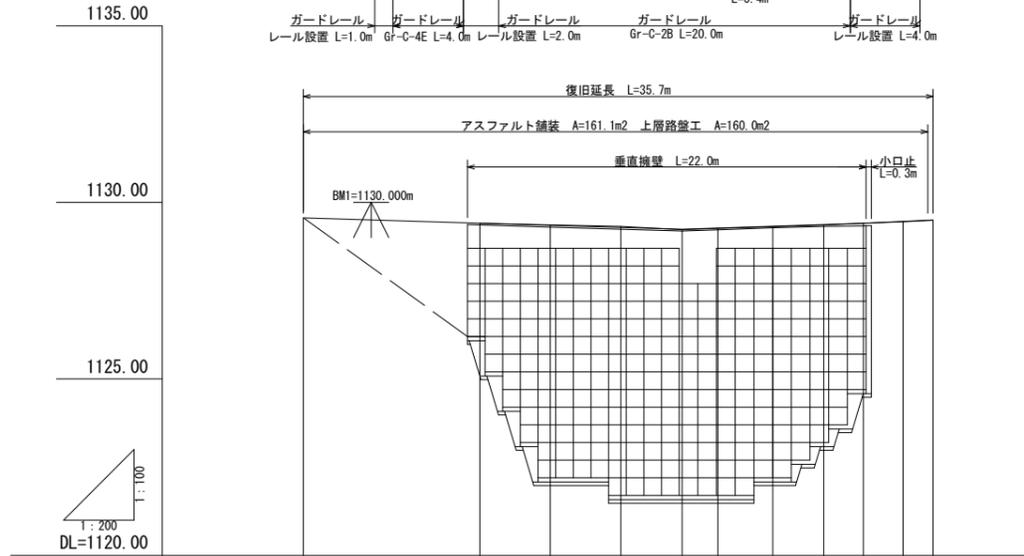
平面図 S=1:200



点名	X座標	Y座標	備考
T0	1000.000	1000.000	
T1	1027.689	1015.491	
T2	1039.241	1022.231	
T3	1020.194	1006.751	
T4	1014.276	1007.831	
標	992.176	1002.844	

点名	X座標	Y座標	備考
+0.0	991.247	997.392	
+10.0	999.838	1002.509	
+14.0	1003.152	1004.749	
+18.0	1006.466	1006.989	
BC.1	1009.341	1008.933	
+23.5	1011.044	1010.806	
MC.1	1013.736	1011.586	
+29.5	1016.325	1012.878	
EC.1	1018.380	1013.775	
+34.0	1020.468	1014.631	
+35.7	1022.040	1015.275	
JPI	1013.611	1011.820	

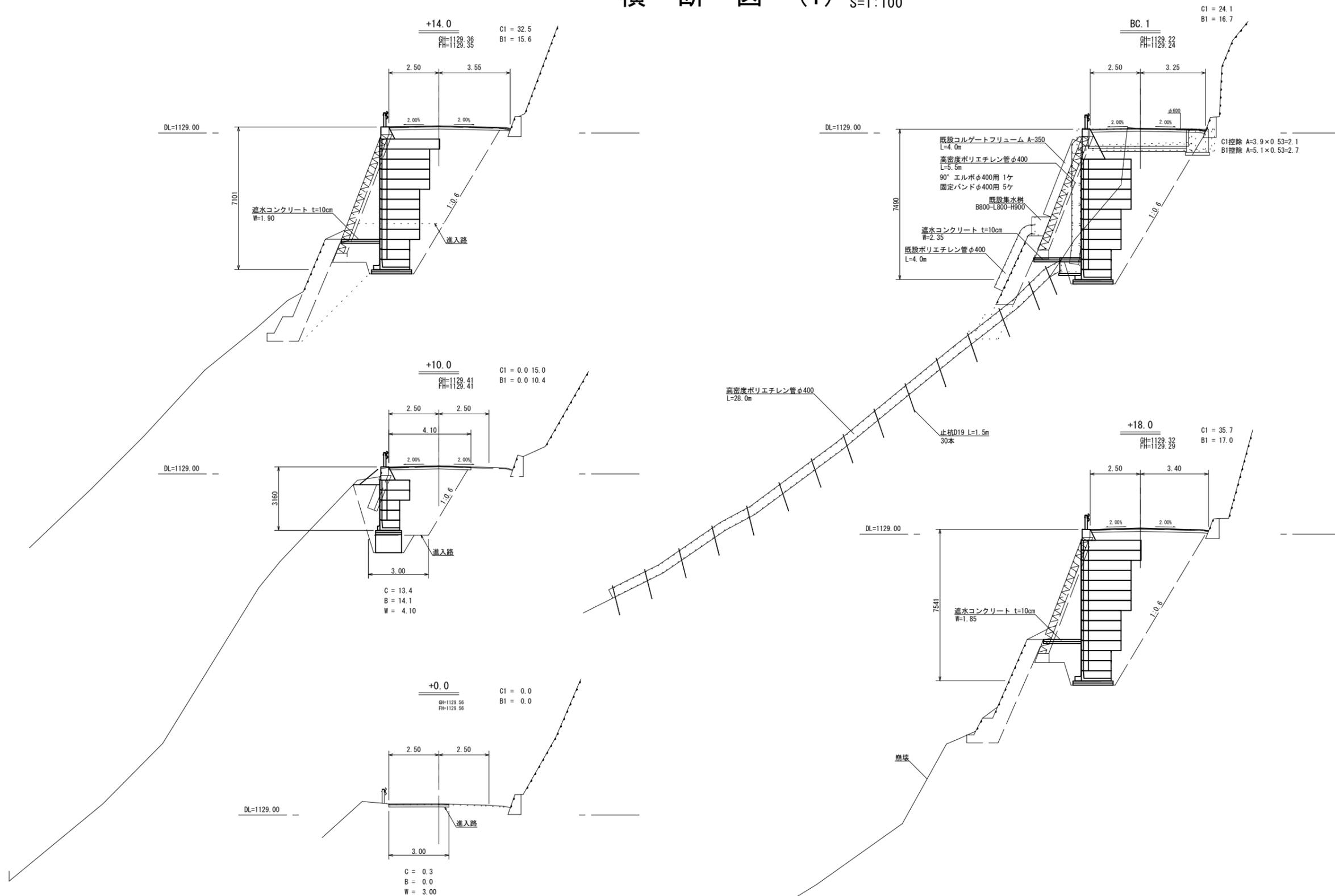
縦断図 V=1:100
H=1:200



勾配											
盛土	0.00	0.00	0.02	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
切土	0.00	0.00	0.01	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
計画高	1129.56	1129.41	1129.35	1129.29	1129.24	1129.27	1129.33	1129.37	1129.41	1129.46	1129.50
地盤高	1129.56	1129.41	1129.36	1129.32	1129.22	1129.26	1129.31	1129.36	1129.41	1129.45	1129.50
追加距離	0.0	10.0	14.0	18.0	21.5	23.5	26.6	29.5	31.7	34.0	35.7
点間距離	0.0	10.0	4.0	4.0	3.5	2.0	3.1	2.9	2.2	2.3	1.7
測点	+0.0	+10.0	+14.0	+18.0	BC.1	+23.5	MC.1	+29.5	EC.1	+34.0	+35.7
曲線											

実施 L=35.7m					
路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種1級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度	施行主体	安曇野市		
名称	平面・縦断図 7 業中 1 番				
施行地	安曇野市 穂高牧				
縮尺	図示	審査者		設計者	

横断図 (1) S=1:100

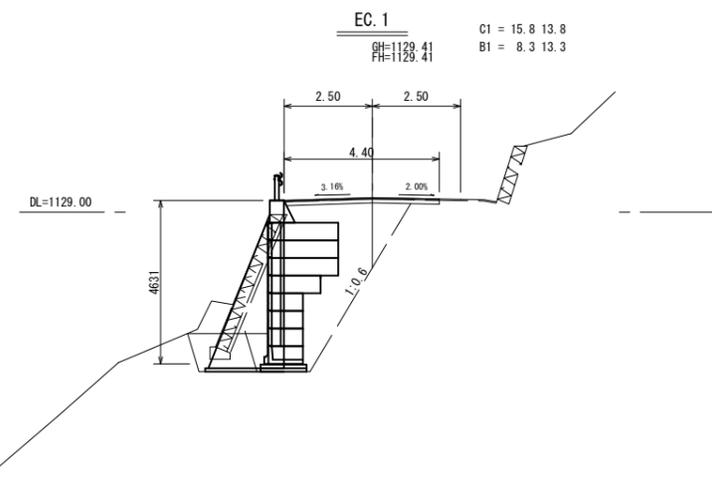
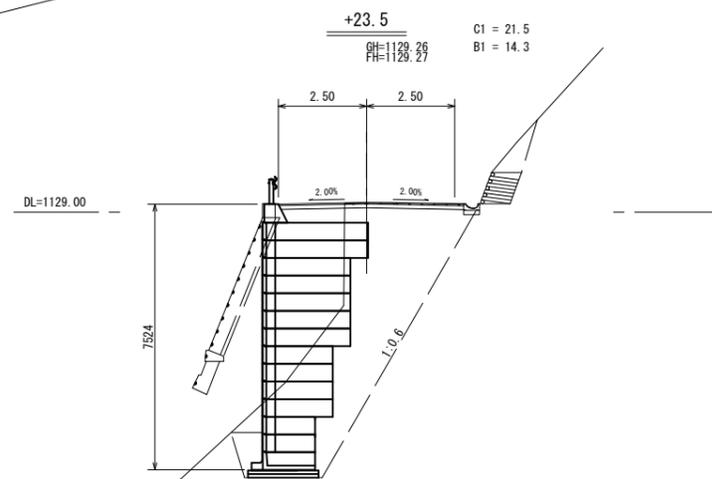
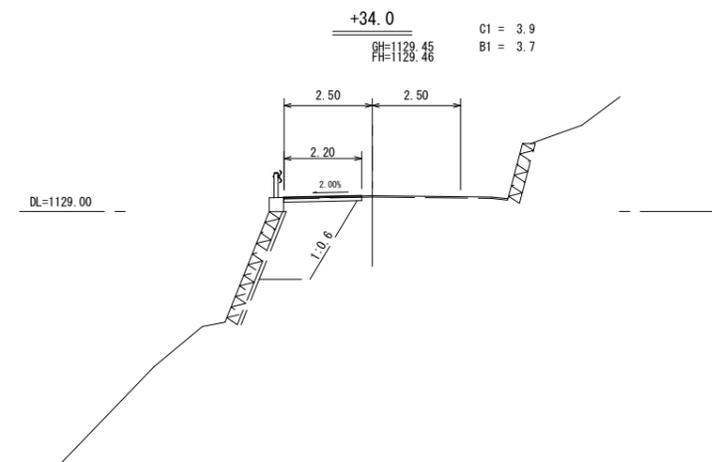
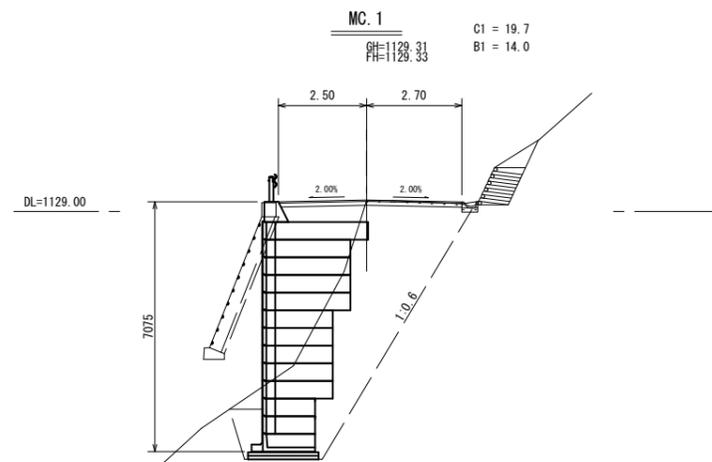
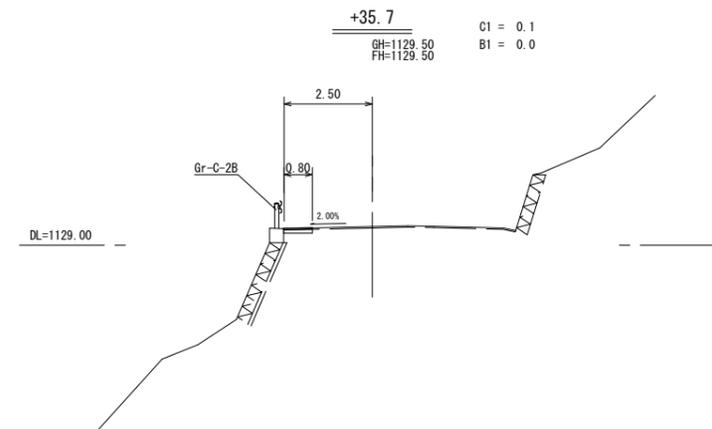
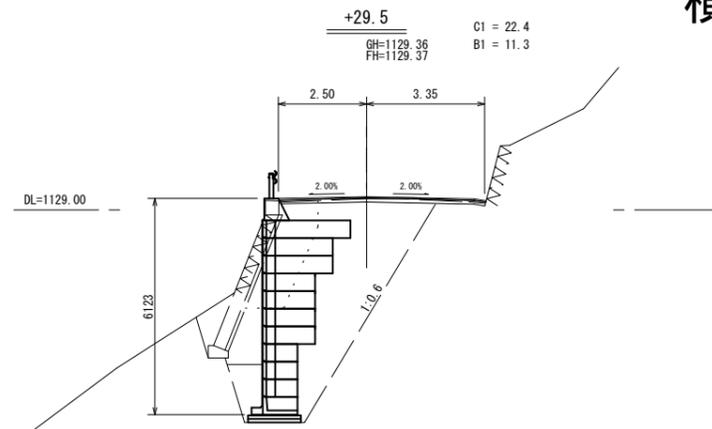


凡例
 C1 = 床掘
 B1 = 埋戻し

実施 L=35.7m

路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種1級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度	施行主体	安曇野市		
名称	横断図(1)		7	業中	2番
施行地	安曇野市 穂高牧				
縮尺	1:100	審査者		設計者	

横断図 (2) S=1:100



凡例
C1 = 床掘
B1 = 埋戻し

実施 L=35.7m

路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種 1級	設計速度	20 km/h
年度	令和 7 年度	施行主体	安曇野市		
名称	横断図 (2)		7 業中	3 番	
施行地	安曇野市 穂高 牧				
縮尺	1:100	審査者		設計者	

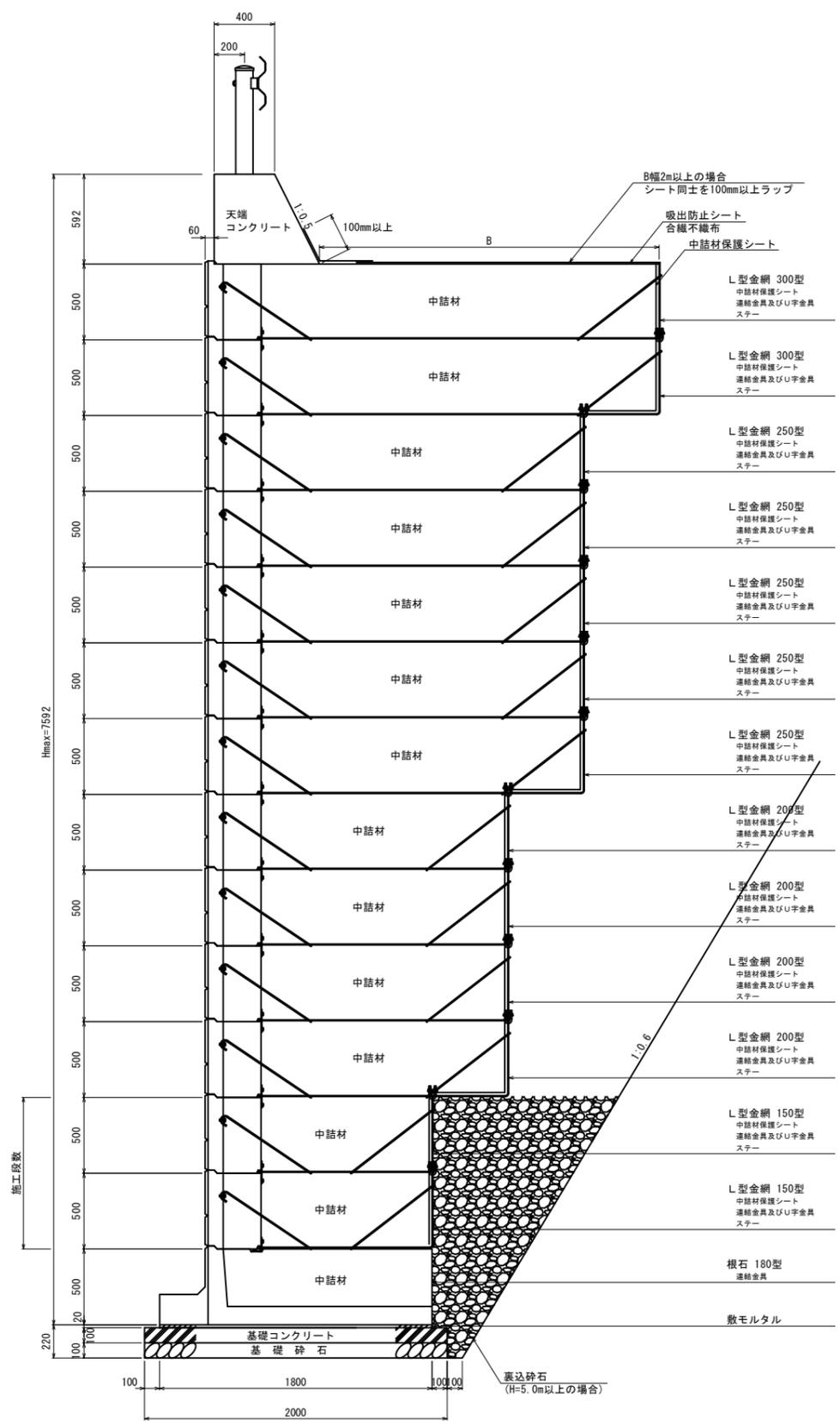
垂直擁壁構造図 (2) S=1:20

設計条件及び土質条件

上載荷重	q= 10.0 kN/m ²
土 圧	試行くさび法による
背面土の内部摩擦角	φ= 35°
背面土の単位体積重量	γ= 18 kN/m ³
許容地盤反力度	qa= 258.70 kN/m ² 以上必要

※背面土の条件は、上記の値を想定して計算をしています。現場条件が上記の値と異なる場合別途検討が必要です。

標準断面図 (Hmax=7.592m)



中詰材数量

中詰材	m ² 当り中詰量 (m ³ /m ²)
ボラメッシュ 100型	0.82
ボラメッシュ 150型	1.32
ボラメッシュ 200型	1.82
ボラメッシュ 250型	2.32
ボラメッシュ 300型	2.82
根石ブロック 110型	0.53
根石ブロック 130型	0.53
根石ブロック 180型	0.84

基礎コンクリート (厚さ10cm)

基礎コンクリート	幅 (m)
根石ブロック 110型	1.30
根石ブロック 130型	1.50
根石ブロック 180型	2.00

基礎砕石量 (厚さ10cm)

基礎砕石	幅 (m)
根石ブロック 110型	1.30
根石ブロック 130型	1.50
根石ブロック 180型	1.80

表込材数量

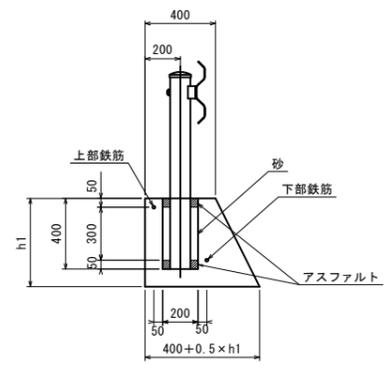
表込材	施工段数	100型	150型	表込量 (m ³ /m)
表込(1)	2	2	0	1.21
表込(2)	3	3	0	1.90
表込(3)	2	0	2	1.21

吸出防止シート

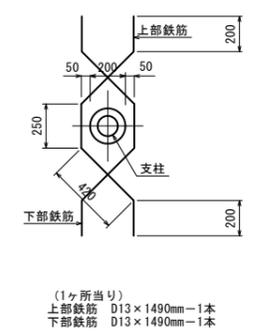
吸出防止シート	B+ラップ (m)	数量算出シート幅 (m)
L型金網 100型	0.29+0.1	1
L型金網 150型	0.79+0.1	1
L型金網 200型	1.29+0.1	2
L型金網 250型	1.79+0.1	2
L型金網 300型	2.29+0.1+0.1	3(1+2)

※B幅は各L型金網使用時の最大の幅になっています。
 ※吸出防止シートはL型金網最上段に敷き、余った分を天端コンクリート部分に折り返して下さい。吸出防止シートを1m+2m使用する場合は、10cmラップさせて下さい。

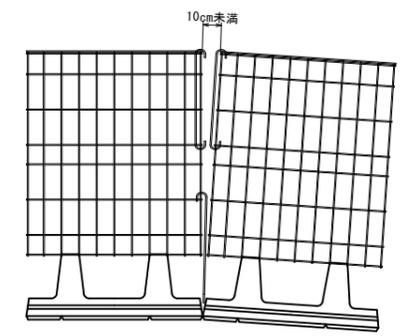
天端コンクリート



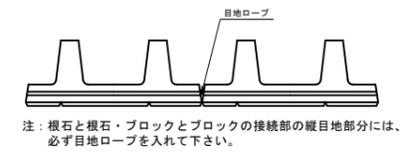
補強鉄筋形状



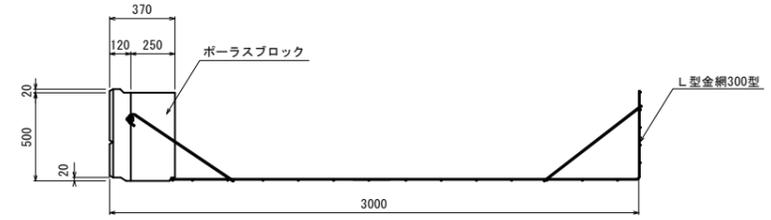
金網開きについて



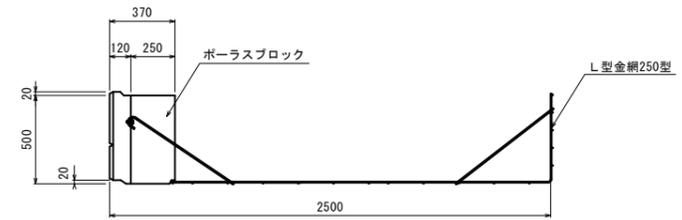
目地ロープ・詳細図



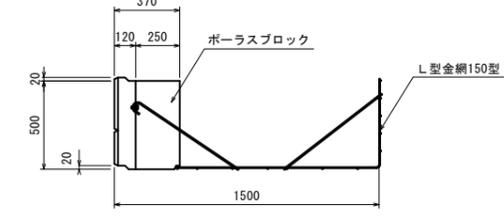
標準300型



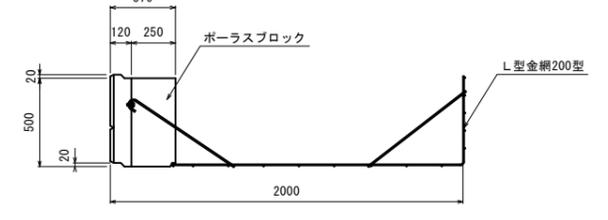
標準250型



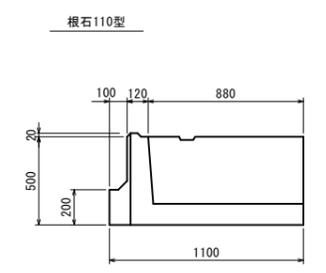
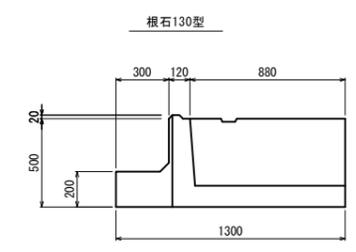
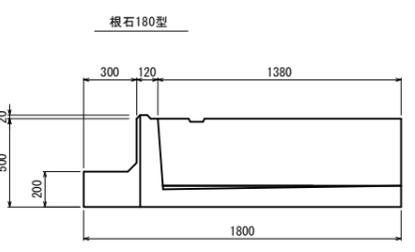
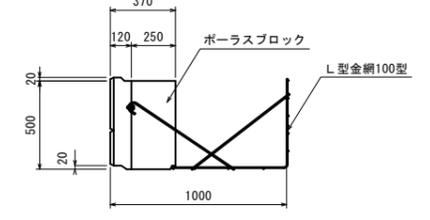
標準150型



標準200型



標準100型

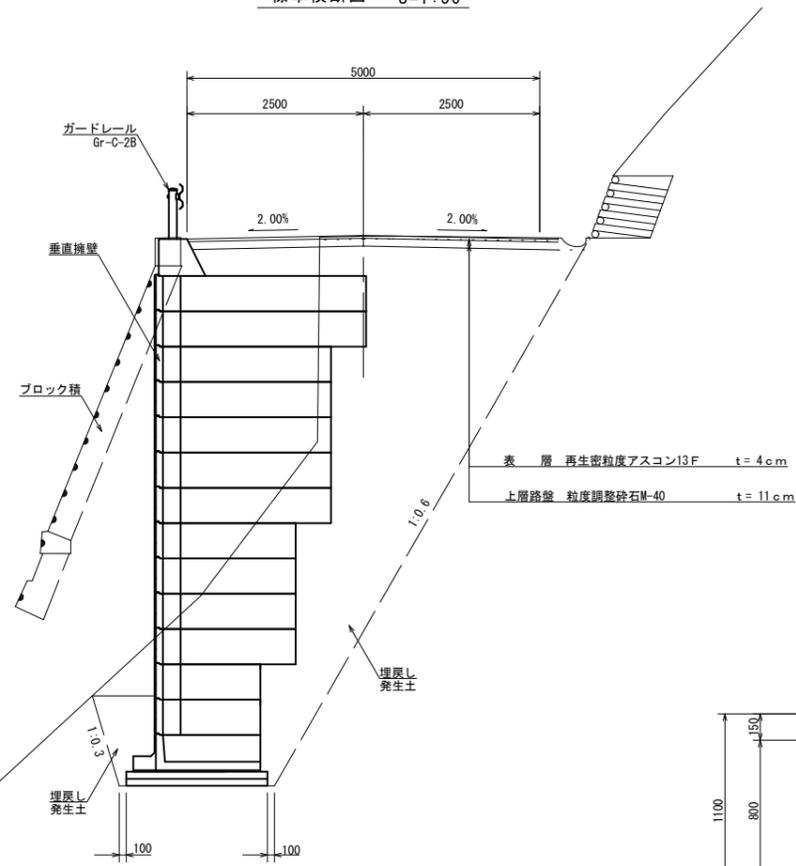


実施 L=35.7m

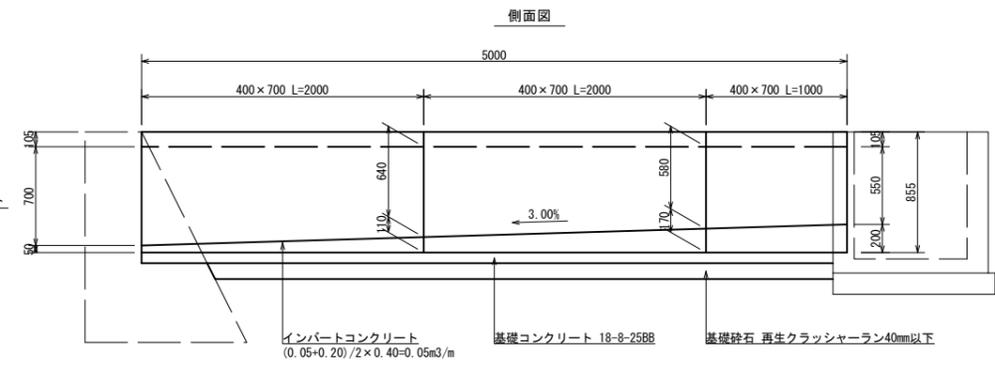
路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種 1級	設計速度	20 km/h
年度	令和 7 年度	施行主体	安曇野市		
名称	垂直擁壁構造図 (2)		7 業中	5 番	
施行地	安曇野市 穂高 牧				
縮尺	図示	審査者	設計者		

構造図(1)

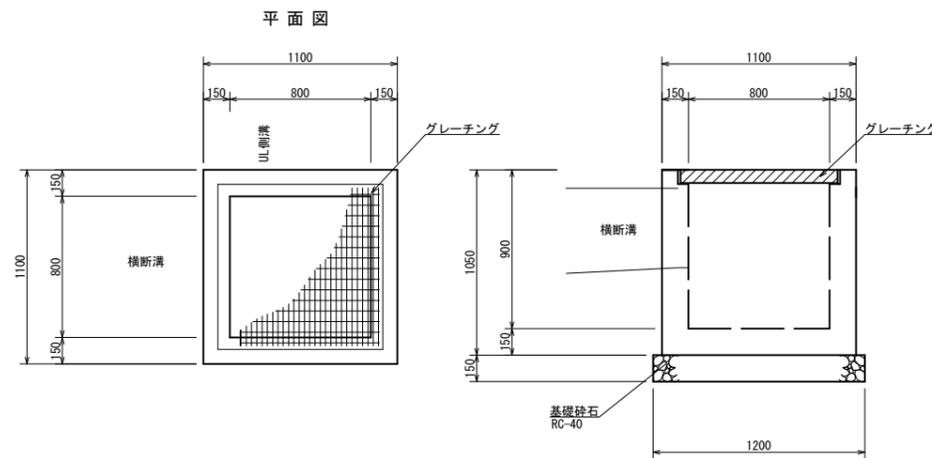
標準横断面 S=1:50



自由勾配側溝 (横断面) S=1:25



集水樹(1) S=1:20
B800-L800-H900

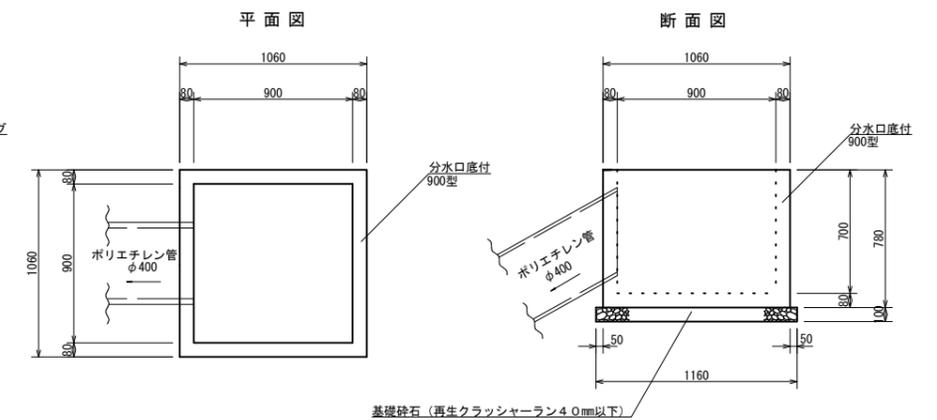


材料表

名称	規格	単位	数量
コンクリート	18-8-25BB	m ³	0.60
基礎砕石	CR40-0 (15cm厚) 再生	m ²	1.44

1箇所当り

集水樹(2) S=1:20
分水口底付900型

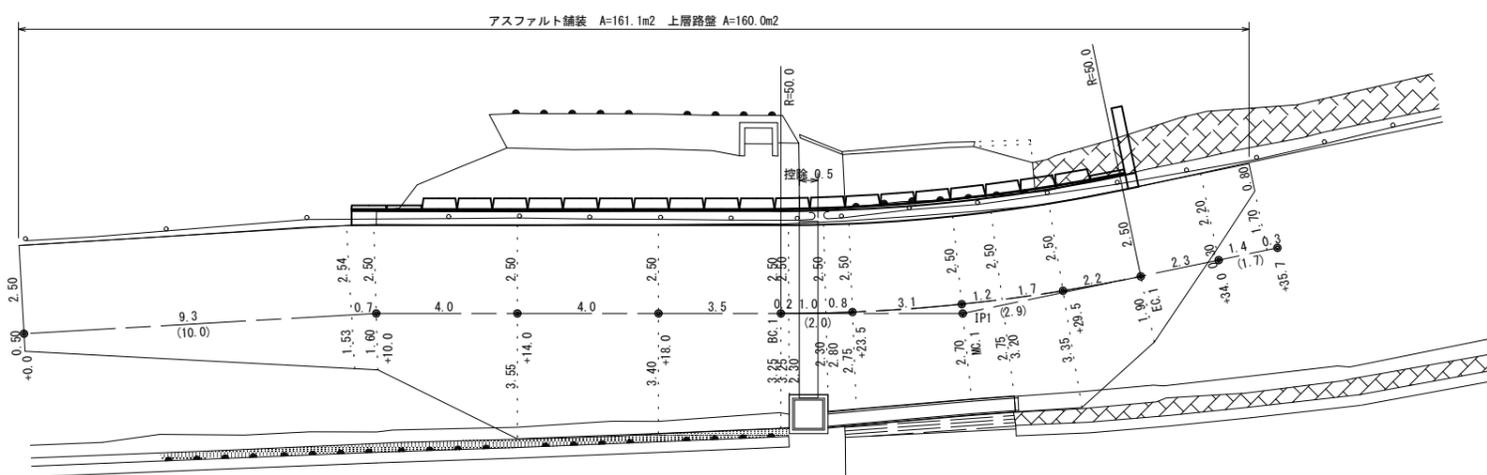


材料表

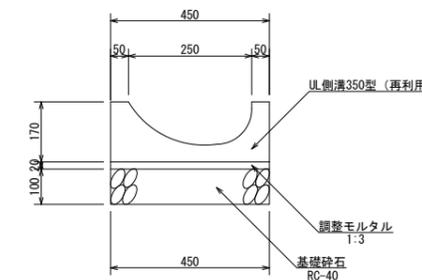
名称	規格	単位	数量
集水樹	分水口底付900型	基	1.00
基礎砕石	CR40-0 (10cm厚) 再生	m ²	1.35

参考製品重量 743 (kg/個)

アスファルト舗装平面図 S=1:100



UL側溝 S=1:10
350型



材料表

名称	規格	単位	数量
側溝本体	UL側溝350型	個	16.50
調整モルタル	1:3	m ³	0.09
基礎砕石	RC-40 (10cm厚)	m ²	4.5
基面修正		m ²	4.5

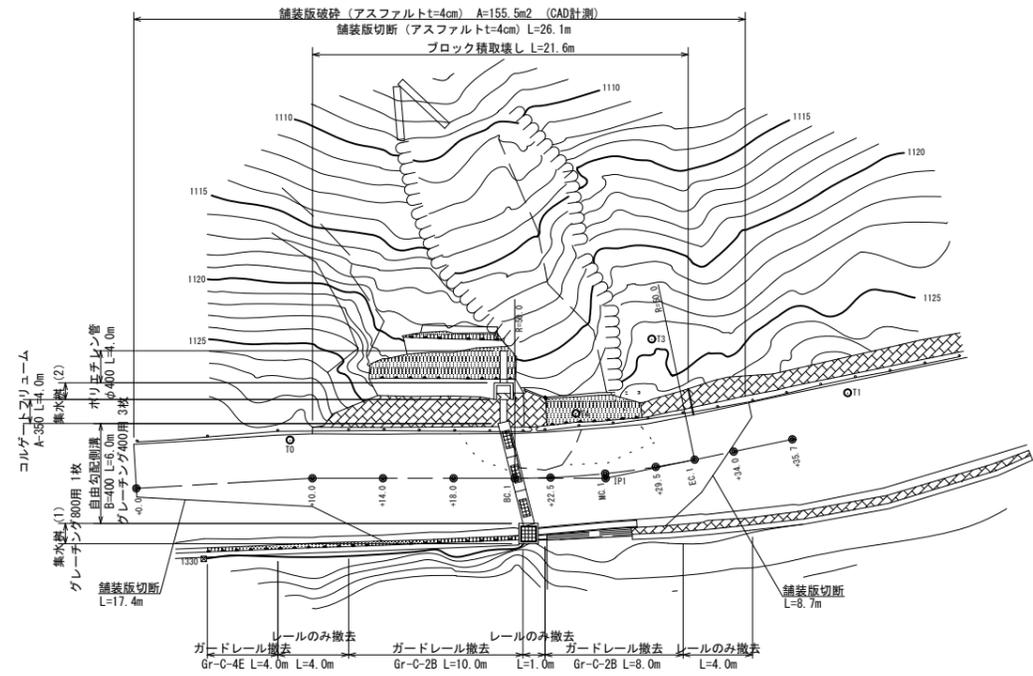
製品参考重量 66kg (L=0.6m)

実施 L=35.7m

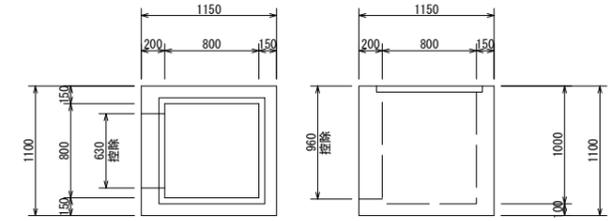
路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種1級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度	施行主体	安曇野市		
名称	構造図(1) 7 業中 6番				
施行地	安曇野市 穂高牧				
縮尺	図示	審査者	設計者		

構造図(2)

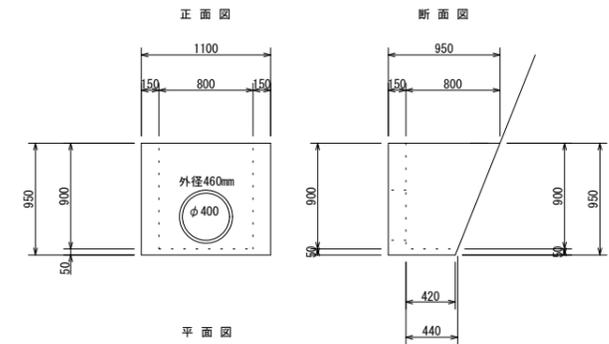
取壊し平面図 S=1:200



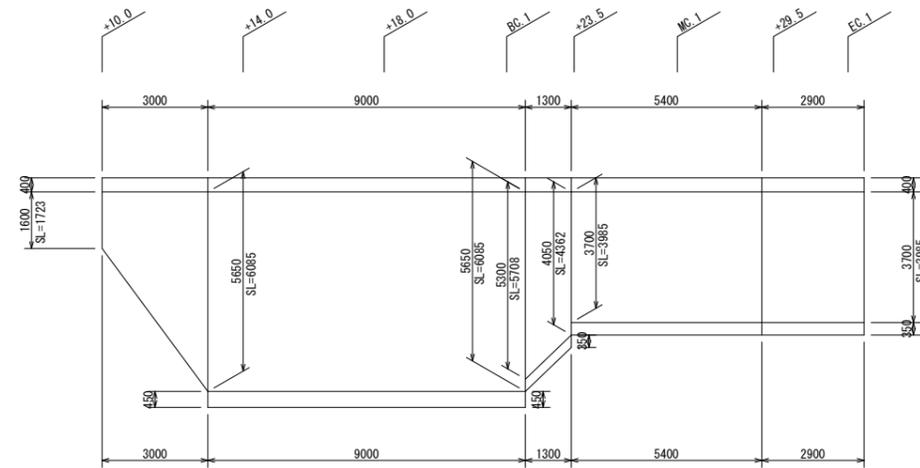
集水樹(1) S=1:30



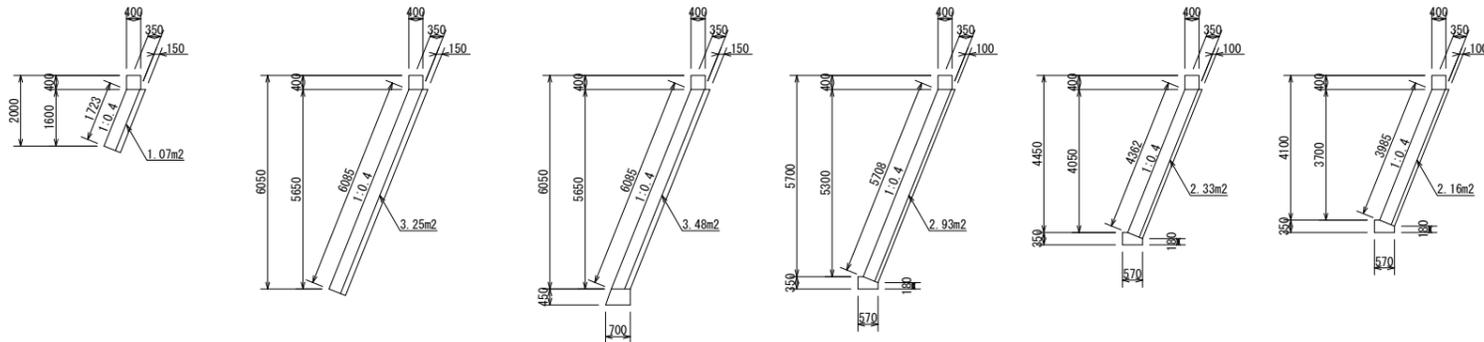
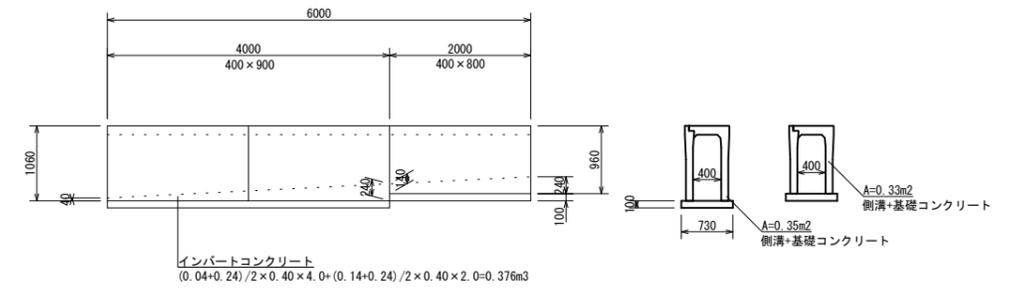
集水樹(2) S=1:30



ブロック積 S=1:100



自由勾配側溝 S=1:50



実施 L=35.7m

路線名	一の沢線	事業名	8月5日から8日にかけての8月豪雨災害 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種1級	設計速度	20 km/h
年度	令和7年度	施行主体	安曇野市		
名称	構造図(2)		7	業中	7番
施行地	安曇野市 穂高牧				
縮尺	図示	審査者	設計者		

工事番号 000-1

(様式-1)

					課長		係長		検算		担当	
--	--	--	--	--	----	--	----	--	----	--	----	--

令和7年度 (R6繰越) 林道施設災害復旧事業 林道一の沢線災害復旧工事 (市単) 実施設計書

安曇野市 穂高牧 金抜き

設 計 大 要	施 工 方 法	請 負
---------	---------	-----

林道復旧工事 垂直擁壁工 L=22.0m	施 工 期 間	日 間
-------------------------	---------	-----

	起工予定年月日	契約の日から
--	---------	--------

	竣工予定年月日	令和 8年 1月 30日
--	---------	--------------

	契約保証方法	金銭的保証
--	--------	-------

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別途指定する建設機械については排出ガス対策型の使用を原則とする。 ・ この設計書で施工機械・仮設材の規格、調査条件等の記載及び「人、h、% 	
--	--	--

総括情報表

事務所名 変更回数 適用単価区分 単価適用地区 実施設計単価表等の適用日	01 0 1 実施単価 50 1 1 中信(2) 07.05.01	
	当 世 代 前払率 40 35%を超える又は前払対象外 消費税率(%) 10 % 工種 03 道路工事 豪雪地域補正 01 補正有り 週休2日補正 07 月単位 諸経費調整有無 1111 契約保証方法 01 金銭的保証	前 世 代
	これらの諸経費等の条件については、原則変更協議の対象とはなりませんのでご理解願います。	

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
** 本工事費 **					
林道施設災害復旧					
擁壁工					
作業土工					
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m3 [超小旋回型] ル - ズな状態の土砂積込 2段ばね	587	m 3			単価 第0 -0001号表
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m3 [超小旋回型] ル - ズな状態の土砂積込 3段ばね	234	m 3			単価 第0 -0001号表
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m3 [超小旋回型] ル - ズな状態の土砂積込 埋戻し土	285	m 3			単価 第0 -0001号表
運搬 小型不整地運搬車 礫まじり土 クローラ油圧2.0 t 埋戻し土	285	m 3			単価 第0 -0003号表
土工 粘性土・礫質土 山積0.45m3 [超小旋回型] ル - ズな状態の土砂積込 碎石 2段ばね	291	m 3			単価 第0 -0001号表

* 本工事費 *

内訳表

費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
プラスチック擁壁工					
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ] 賃料 ~ 排2014・低騒 (油脂類含む)	3	日			
仮設工 (指定仮設)					
仮設用モルタル吹付工 吹付厚 3 cm ラス張必要、豪雪割増 工種条件と同じ	177.2	㎡			単価 第0 -0005号表
** 直接工事費 **					
** 共通仮設 費率計算額 *	率	0.1176			
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
** 現場管理 費 **	率	0.3062			

単 価 表

仮設用モルタル吹付工
吹付厚 3cm

ラス張必要、豪雪割増 工種条件と同じ

単価 第0 -0005号表

100 m² 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役	0.50	人			
法面工	2.00	人			
特殊作業員	0.80	人			
普通作業員	1.30	人			
ラス張工（現場吹付法枠用）	100.00	m ²			単価 第0-0006号表
吹付材料	3.81	m ³			
モルタルコンクリート吹付機運転（機-15） 湿式 モータ駆動（0.8～1.2m ³ /h）	4.40	h			単価 第0-0008号表
空気圧縮機運転（機-16） 可搬式・エンジン 10.5～11m ³ /分 排出ガス対策型1次基準	0.69	日			単価 第0-0009号表
発動発電機運転 ディーゼル駆動 45kVA 排出ガス対策型1次基準	0.69	日			単価 第0-0007号表
ホイールローダ運転（機-29） 山積0.34m ³ 普通型	0.37	日			単価 第0-0010号表
計量器〔骨材累加算・機械式〕 ひょう量300kg×1槽・2桿	0.69	日			
ベルトコンベヤ（ポータブル） モータ駆動 幅350mm 長7m	1.40	日			

ラス張工（現場吹付法枠用）

単 価 表

単価 第0 -0006号表

頁0-0011

100 m² 当り

名称・規格など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
金網 径2網目50×50	140.00	m ²			菱形2mm×50mm目
アンカーピン 長400mm径16mm	30.00	本			径16×400mm
補助アンカーピン 長200mm径9mm	150.00	本			径 9×200mm
塩化ビニ - ル管 無孔管、VP50	2.70	m			VP管（ 50mm）により作成
土木一般世話役	0.70	人			
法面工	2.20	人			
普通作業員	0.90	人			
発動発電機運転 ディーゼル駆動 45kVA 排出ガス対策型1次基準	0.60	日			単価 第0-0007号表
諸雑費	13.00	%			(労+機)×率
*** 合 計 ***	100	m ²			
*** 単位当り ***	1	m ²			

R7市単 一の沢線

数量計算書

数 量 総 括 表

工 種	種 別	細 別	計 算 式	数 量	単 位
擁壁工					
作業土工					
	BH一般土工 2段ばね	BH0.45m3 ルーズ	「擁壁工数量計算表」	586.9	m ³
	BH一般土工 3段ばね	BH0.45m3 ルーズ	〃	234.2	m ³
	BH一般土工	埋戻し BH0.45m3 ルーズ	〃	284.6	m ³
	小型不整地運搬	埋戻し 2.0t	〃	284.6	m ³
	BH一般土工 2段ばね	BH0.45m3 ルーズ	〃	290.7	m ³
フレキャスト擁壁工					
	クレーン賃料		「擁壁工数量計算表」	3	日
仮設工					
法面吹付工					
	法面工 モルタル吹付工	吹付厚5cm	「仮設モルタル吹付数量計算表」参照	177.2	m ²

【 垂直擁壁数量計算書 】

碎石(2段ばね数量)

【垂直擁壁 中詰材】

各L型金網規格 設定数値中詰材m3/m2数量より中詰材料算出

100型	0.82 (m3/m2)	$\text{算式} = (100\text{型m2数} \times 0.82) + (150\text{型m2数} \times 1.32) + (200\text{型m2数} \times 1.82)$		
150型	1.32 (m3/m2)	$+ (250\text{型m2数} \times 2.32) + (300\text{型m2数} \times 2.82) + (350\text{型m2数} \times 3.32)$		
200型	1.82 (m3/m2)			
250型	2.32 (m3/m2)		規格	RC40-0
300型	2.82 (m3/m2)			210.04
350型	3.32 (m3/m3)			m3
T35 100型	0.63 (m3/m2)	$\text{算式} = (T35 100\text{型m2数} \times 0.63) + (T35 150\text{型m2数} \times 1.13) + (T35 200\text{型m2数} \times 1.63)$		
T35 150型	1.13 (m3/m2)	$+ (T35 250\text{型m2数} \times 2.13) + (T35 300\text{型m2数} \times 2.63) + (T35 350\text{型m2数} \times 3.13)$		
T35 200型	1.63 (m3/m2)			
T35 250型	2.13 (m3/m2)		規格	C40-0
T35 300型	2.63 (m3/m2)			0.00
T35 350型	3.13 (m3/m3)			m3

※河川での計画の場合、水位ブロック(T35)の中詰碎石はクラッシャーラン(C40)を使用して下さい。

【垂直擁壁 根石ブロック中詰材】

根石ブロック規格 設定数値中詰材m3/m2数量より中詰材料算出

根石ブロック100型	0.53 (m3/m2)	$\text{算式} = (\text{根石100型m2数} \times 0.53)$		
根石ブロック110型	0.53 (m3/m2)	$+ (\text{根石110型m2数} \times 0.53)$	規格	RC40-0
根石ブロック130型	0.53 (m3/m2)	$+ (\text{根石130型m2数} \times 0.53)$		
根石ブロック180型	0.84 (m3/m2)	$+ (\text{根石180型m2数} \times 0.84) =$		7.36
				m3
根石ブロック100型(水位)	0.53 (m3/m2)	$\text{算式} = (\text{根石100型m2数} \times 0.53)$	規格	C40-0
根石ブロック110型(水位)	0.53 (m3/m2)	$+ (\text{根石110型m2数} \times 0.53)$		
根石ブロック130型(水位)	0.53 (m3/m2)	$+ (\text{根石130型m2数} \times 0.53)$		
根石ブロック180型(水位)	0.84 (m3/m2)	$+ (\text{根石180型m2数} \times 0.84) =$		0.00
				m3

※河川での計画の場合、根石(水位)の中詰碎石はクラッシャーラン(C40)を使用して下さい。

【垂直擁壁 裏込碎石】

※擁壁高さ5.0m以上、または水位・湧水がある場合に施工

	裏込量(m3/m)	延長(m)	体積(m3)		
裏込(1)	1.21	1	1.21	掘削勾配	規格
裏込(2)	1.90	1	1.90	0.6	RC40-0
裏込(3)	1.21	15	18.15		
裏込(4)					
裏込(5)					
裏込(6)					
裏込(7)					
裏込(8)					
裏込(9)					
裏込(10)					
計		17.00	21.26		21.26
					m3

【垂直擁壁 基礎碎石】

算式 = (根石100個数 × 1.2 × 厚0.1) + (根石110個数 × 1.3 × 厚0.1)
 + (根石130個数 × 1.5 × 厚0.1) + (根石180個数 × 2.0 × 厚0.1) =

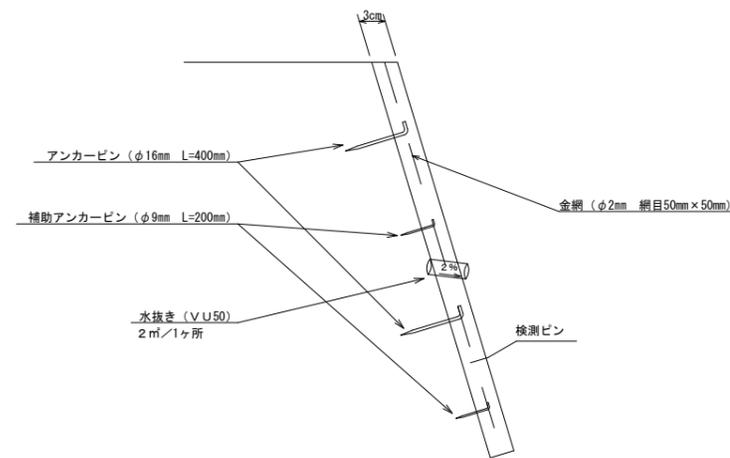
規格 RC40-0

3.58 m2

【合計】

242.24 m3

仮設モルタル吹付工構造図



仮設モルタル吹付工 吹付厚 3 cm					100㎡当り
名称	規格	数量	単位	摘要	
モルタル	普通ポルトランド	3.81	㎡	標準割増 2.7%	
金網	菱形金網 φ2mm 網目50mm×50mm	1.40	㎡	標準割増 4.0%	
アンカーピン	φ16mm L=400mm	3.0	本		
補助アンカー	φ9mm L=200mm	15.0	本		

モルタル吹付材料配合比					1㎡当り
工種	セメント	砂	水セメント比	摘要	
モルタル吹付工	420kg	(1.680kg) 1.24㎡	45%~55%	C:S= 1:4	

実施 L=35.7m

路線名	一の沢線	事業名	市単 林道一の沢線 林道施設災害復旧事業		
林道区分	奥地	級別区分	第2種 1級	設計速度	20 km/h
年度	令和 7 年度	施行主体	安曇野市		
名称	構造図		1 業中	1 番	
施行地	安曇野市 穂高 牧				
縮尺	1:100	審査者		設計者	